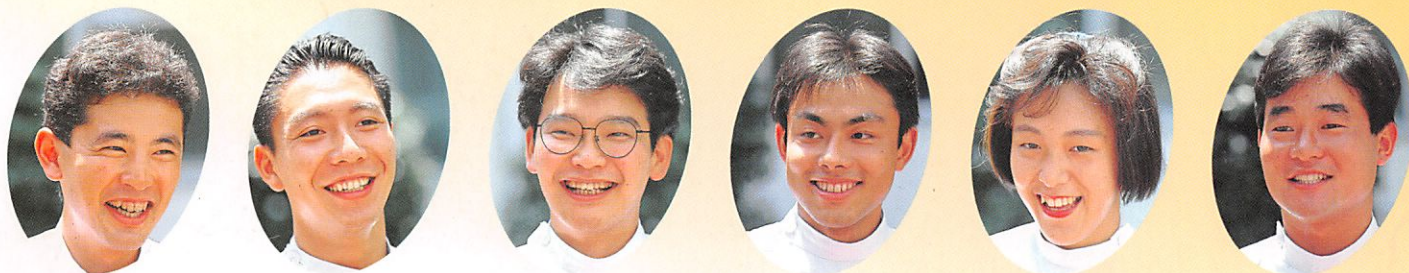


# ZOOM UP

広島大学  
歯学部



1991.No.76





## 世界展望

開口一番、私は臨床の経験は僅かですし、専門も歯科理工学一筋に参りましたので、皆さんのように臨床にすぐ役立つお話しが出来るかどうか、とおっしゃる。温厚でゆったりとしたお話しぶりは、40年余り基礎一筋に歩まれて来た方とは思えない。この辺が学長として統率をまかされた所以か。

「でも基礎学問の中でも私のやって来ました理工学は、保存、補綴、矯正の各科に関係が深い。又人工歯、特に近年盛んに行われて

たり、また戦時中は看護婦がいなくなり手伝ったりしましたが、私自身は工学系が好きで、医者にはなりたくなかった、というのが本音です。ところがどうしたわけか、大歯に進みまして(笑)、卒後は阪大に。当時の教育は、臨床は自分で覚える方式だったんで、もともと臨床は好きじゃあなかったんで、早速基礎の歯科理工学へ。どうも動機が不届きですね(笑)」。ユーモアを交えながらの生い立ち話しは印象通りの温かさを感じさせる。

「近年の歯科大学における教育は益々細分化され、学問としての勉強は多くなっておりませんが、その分肝心の実習時間がどんどん少なくなって来ております。卒直後研修制度を法制化しようという話しがありますが…。やはり臨床実習は患者に直接ふれることが最も大切です。現在、患者さんの権利意識の高まりや、医療過誤の問題等でなかなか難しい面が多いのですが、物質科学から精神面の科学の勉強も、医師という職業にはぜひ必要です。最近ではインフォームド・コンセントという言葉がよく使われますが、それにはそこまで行くまでの過程があります。無縁の関係にあった患者さんが、来院される中に馴染

みとなり、気のおけない間柄になる。接触頻度、期間、そこから知る相手(患者)の個人的背景、話題の共通性等、深く知り合うことによってお互いに安心感が芽生えて来ます。つまりインフォームド・コンセントとはそうしたお互いに信頼きった関係の中で成立する、心理学的な要因なのだと思います。」治療する側がどれだけ相手の立場に立って考えてあげられるか。歯科医師という職業が従来とは違った発想を迫られている時代の到来とも思われる。不謹慎と、読者の先生方から叱られるかも知れませんが、その過程を考える時、知らないバー(酒=技術が同程度と考えた場合)に1人で入って何時の間にか馴染みになっていく。何故?と聞かれても、温かい雰囲気ぐらいで、自分にもハッキリわからない、あの過程と似ているのではないだろうか、と

ふと思った。もちろん医院では「いらっやいませ」とは絶対云えないし、云わないが…。

「現在医療は第3次産業に属しておりますが、これは筋肉労働としての部分が相当あります。歯科医療が知識と筋肉労働から、予防医学、病気にならない為の指導へと進んでいけば、第4次(知識:知恵を主)から第5次(宗教等)へと移って行くのではないかと思いますし、その方面にこそ進むべきだと思うのです。父の時代は医者は神様に近かったです。時代背景も患者心理も、今の様相とは全く違っておりますが、ある部分——絶大な信頼や安心感、又尊敬を受けていました。こうした部分を目指すことは昔も今も医師には必要なものの一つなのではないでしょうか。体力を使い、人数だけにこだわる現在の歯科医療下では自らをつぶしてしまうのではないかと懸念される。

「歯科医師不足で各地に歯科大学を作り、今は過剰と云われ、当大学でも160名から120名に定員削減をしましたが、数年後に迫った受験生の減少にどのように対処して行くべきか。各私大は独自の方向づけに頭を悩まされているようです。大学運営においては冬の時代の到来です。」「が一方、臨床医にとっては、かつての華やかな時代は夢物語にしても、口腔衛生思想の発達やケアとかカウンセリングとかいうような心理学的な背景をも取り入れた、時代に即した勉強を、油断をせずに進めて行けば必ず良い結果が生まれて来ると信じております」。それには小・中・高での現在の偏差値一辺倒の教育方針の改革や、また家庭においての人間教育、躰の大切さも同時に推し進めなければ大學だけで対処しきれものではない、とおっしゃる。

気負いも、堅苦しさも全く感じられず、淡々と親しみをこめて話される口調は、まさに、おっしゃる医療人を地で行っているような学長であった。

## ●略歴

大正12年3月 兵庫県神戸市に生まれる  
昭和22年3月 大阪歯科大学歯学部卒業  
昭和22年4月 大阪大学医学部付属病院歯科  
昭和26年4月 大阪大学歯学部助手(歯科理工学)  
昭和36年6月 大阪大学歯学部講師(昭和41年2月迄)  
昭和41年3月 神奈川歯科大学教授(元年3月迄)  
昭和61年4月 歯科技工専門学校長(元年10月迄)  
昭和63年7月 神奈川歯科大学学長 現在に至る  
昭和63年7月 学校法人神奈川歯科大学 理事 現在に至る



神奈川歯科大学学長

## 山中 彬

おります人工歯根——インプラント等の生体材料も扱うわけですから、臨床には密着しています。ただ、このインプラントの良否につきましては、専門医から聞くところによりますと成功と云える確率は約50%と云われます。食べやすくなり、人々に幸せを与えることは、即我々歯科医の喜びとすることですが、やはり生体に異物を入れるわけですから、誰にも合うというわけには行きませんね。顎型や患者の環境を充分考え施すことが大切だと思います。

大正12年、神戸市の医家の長男として生まれる。「小さな頃より父の医者としての姿を見



わが校を語る

# 広島大学 歯学部

歯学部長

岡本 莫



## ■プロフィール

- 昭和6年10月 岡山県津山市に生まれる
- 昭和32年3月 大阪大学歯学部歯学科卒業
- 昭和37年3月 大阪大学助手歯学部
- 昭和44年5月 広島大学助教授歯学部
- 昭和48年7月 広島大学教授歯学部
- 昭和55年6月 広島大学歯学部附属歯科技工士学校長(至、昭和60年3月)
- 昭和61年6月 広島大学歯学部附属病院院長(2年間)
- 平成3年4月 広島大学歯学部長 現在に至る

駅から京橋川に沿って下り、比治山公園を過ぎたところを左折する。昔はおそらく山の麓に位置する緑濃い静かなキャンパスのイメージがあったであろうが、近年は急速に開発が進み、市街地にある大学の印象。お話しによると、当大学も昨年から徐々に西条(東広島)キャンパスへと移転、3年後には医・歯学部を残し、総ての学部が移る予定と云われる。それだけに残る医・歯学部は、学問、研究とも更に内容を充実させ、緊密化を図り、共に力を合わせて市民と周辺開業医の良き協力者、研修場、また医療の拠点となっていくことであろう。

学部長のお話の前に、内部を簡単に説明すると——歯学部はA棟からD棟までの4つの棟から成り、A棟の4階半分までを診療、診断、検査室及び病棟として使用、上部6階迄を基礎講座や臨床講座の一部に。B棟は主として附属の歯科技工士及び衛生士の養成専門学校に使用。C棟は主に臨床講座と専務部門、D棟は歯科学生の講義及びその実習室に使われている。

お会いした岡本歯学部長も、ご専門が歯内歯周治療学で、臨床一筋に歩まれて来た方だけに、この日も忙しく立ち働いておられた。

「当大学の歯学部は、東京医科歯科大、阪大歯学部が続いて、東北大、新潟大と共に設立された、国立では古い歴史を持つ学部です。設立にあたっては県歯科医師会と大学の医学部が、当時の世相を考え、強い要望により新設されたものです。ですから今でも医学部との連携も密接であり、また歯科医師会との交流も活発で、市内の臨床医のための研修実習の場所提供や相互の情報交換、また県歯会長の在学生への講演等、歯科医師過剰で色々問題が多い中において理想的に親交を深めているといえるのではないのでしょうか。」

先述のように学部長に就任された今でも、暇をみては患者治療にあたられている。長年歯科医療の現状と複雑な患者心理を冷静に見据えて来られただけあって、お話しの内容も素直にうなづける。——いま問題になっている卒後研修制度については「卒後の研修制度は、丁度私が附属病院院長時、



の昭和62年に一般歯科診療の知識と技能のレベルアップを図るために発足したのですが、国・私立大の足並みが揃わず研修方法や内容が統一されていないのが現状です。解決策として研修医制度の法制化がありますが、これには大学教育制度、国家試験制度とも関連し、医療法、歯科医師法の改正、それにも増して完全な国の予算措置化など多くの解決すべき問題があります。しかし、このことは歯科医師および歯科医療のレベルアップや歯科医師過剰対策にも大きく寄与するものとして、是非とも、早期の実現が望まれますね。

お生まれは岡山県津山市。当時、新設成りばかりの阪大歯学部へ。「当家はもともと造り酒屋だったんですが、曾祖父が粹人というのかな、酒を飲み歌を詠むのが趣味。続いて祖父はバクチ好き、小豆相場に手を出して…。この2代で破産しました(笑)。父は軍人だったので終戦でスッカラピン(笑)。私は固い職業を、とのことで阪大に入りましたが、楽だろうと新設なった歯学部へ。どうも動機が不純ですね(笑)。岡山に18年、大阪に19年。昭和44年に当大学に来ましたので、もうこの地が最も長くなりました。」と生い立ちを語って下さった。

—現代学生気質をご覧になって「私達の学生時代と比べて勉強は多様化、高度化しています。性格的にも素直で真面目な学生が多いですね。ただ一方、恵まれた環境下からか、チャレンジ精神というのか、人間としての気迫がないように思います。先日、歯学概論の時間に自分の将来像について書かせたんですが、ほとんどの学生が夢を持っていないんですね。歯学部に来ているんだから、自分は多分歯科医になるんじゃないか? という程度なんです。基でも何でも、3~4手先を読むのと、行きあたりばったりではまるで違いますよね。浅く広く情報量が多いが、1つのことに集中することが少ないみたいで…。不思議に感ずるのは、自分の将来や問題について、深く友達とは話し合わないようです。生涯このまま行けば良いが、人生そんなにスムーズに行かないとは思いますが…。」—歯科医師過剰問題については「現在は歯科医療

も大きく変わってきました。齶蝕中心の歯1本1本に着目した治療から、歯周組織、咬合、顎関節などの口腔の健康管理を通して全身の健康管理に関与する医療体系へと、これにはとりわけ一口腔単位の考え方や予防とメンテナンスの拡充が重要となります。地域住民に対して、その人の一生について口腔の健康管理に責任をもつこと



が歯科医の要務となれば、1200人に1人の歯科医では不十分かもしれません。また、これからの歯科医療は、2極分化、つまりプライマリーケアとしての歯科医と専門分野をマスターする歯科医とに分かれてきますが、前者を必要とするのは主として地方、都会では後者が活躍出来る方向に向かっています。そして当大学でもそうですが、定員の削減と共に女性の歯科学生が増えている現状を考えますと、現在云われております過剰も近い将来緩和に向かうのではないのでしょうか。まず今の患者さんに信頼感を得ること。それには知識、技術と共に人間学をしっかり身につけることが第一とおっしゃる。「インフォームド・コンセント(知らされたうえでの同意)の時代と云われておりますが、医者が望む良い患者と患者が求める良い医者とは100%近くお互いの気持ちがくい違っているのです。ドクターショッピング(医者をどンドンとり変える)は歯科医院の場合に特にその傾向が強いようです。これからは患者を中心にして医療が行われる時代です。かつての医師天動説から地動説への、発想の転換が必要です。かなり厳しいお話しであるが、日々診療の第一線に立っている方だけに説得力がある。

現学生数400余名。巣立った卒業生も既に1000名を越え、地域の中堅医師として公私にわたって大活躍の様子。歯科医師過剰問題に対する定数削減に続いて5~6年後には大学受験者人口の大巾減少。国立と云えども教育内容、指導、運営も大きく変革を迫られている。その為には「当大学もカリキュラム委員会を発足させて、新しい歯学教育の在り方を現在模索中です。学生には、医療がいかに崇高な職業であるか、また、それに携われることへの誇りと責任をしっかりと認識して邁進して頂きたいと思えます。また当大学は、近代設備を整えた地域の中心大学として医・歯両部門の先端医療の提供、地元歯科医師会との協力のもとに、長い目でみた歯科医療界の発展を考えております。魅力ある歯科医師は魅力ある指導者から生まれて来る。実感として感じられる歯学部長。丁度60才である。



# 社団法人 長野県歯科医師会



会 長／桐原 成光  
 副 会 長／片桐 寿  
 副 会 長／山口 典夫  
 専務理事／轟 朝五  
 常務理事／関 勇悟  
 常務理事／春日 衛  
 常務理事／小林 宏敏  
 常務理事／田村六七夫  
 常務理事／三宅 健一  
 理 事／横内 秀臣  
 理 事／手塚 誠之  
 理 事／溝口 幸二  
 理 事／宮坂 昌弘  
 理 事／竹内 忠彦  
 理 事／北川原 穰  
 常務監事／伊藤 武志  
 監 事／黒沢 明雄

取材前は、長野県人はちょっと重く粘っこいとの印象を持っていたが、会長先生以下事務局の皆さんまで丁寧で明るく、意外(?)と思うと同時にホッとします。



会 長／桐原成光

会長：長野県は現在人口約220万人、その方々を会員1,012名と松本歯科大学その他の病院等でカバーしております。ご存知のように当県は山が多く、南北に長い県ですので、一概には論じられませんが、全会員の地元住民に対する公衆衛生活動は活発でその点は自慢出来ると思います。ただ先述のように広い県ですので、会員数も市部では100名以上ありますが、30～40名位のところも多く、一括指導という点では無理がありますので、各地区ごとにそれぞれの事情に合わせ行うということでもかせております。土地柄か県民性からか一般県民はむろんのこと各事業所の口腔衛生指導や障害者歯科健診制度の導入などは他県よりも早かったのではないのでしょうか。又、会員自身のスタディーグループ活動も盛んであり、日歯の生涯研修と題して発足させた事業も、当時は当県と京都府がモデル県でした。今後はこうした姿勢を更に伸ばし、——例えば将来増えるであろう寝たきり老人を含む心身障害者のための講習会など大学とタイアップしアドバンスコースとして更に進めて行き度いと思っております。その他、他県でもやられているようですが、長寿を祝う会での会員の顕彰や歯科保健文化賞での対外的な功労者の表彰、また6月4日の歯の衛生週間の活動など、老若皆さんが協調と和の精神で活躍してくれまして感謝しております。

山口：私は主として広報と公衆衛生と福祉関係を受け持っておりますので、その話を。県歯が行っている共済は30余年に及ぶ歴史の中で加入者にプラスになるよう改正と運

営努力が続けられて来た。内容的には死亡、災害、障害、傷病見舞、融資、医師賠償保険等、広い範囲にわたっています。その様な中で平成2年9月1日より新しい型の休業補償共済を開始しました。加入者の皆さんからお預かりした預託金は平均年利7.6%位の高利廻りでの運用がされ本年9月1日より休業に対して給付が開始されます。今後県歯福祉の運営については今将来に於いて長期安定を図る等より一層の努力をしていきたいと考えております。公衆衛生活動については、公衆衛生の普及、県民の健康増進、長寿社会に対応すべく成



副会長／山口典夫

人歯科保健、事業所健診、心身障害者歯科健診、地域保健医療計画の推進、在宅歯科診療等々目白押しの事業遂行に全会員の努力で全力をあげて取り組んでいるところで。全国的にも注目されていると自負しております。特に本年度より県独自の在宅寝たきり老人歯科保健推進事業として県単補助率1/3、17,450千円の子算付が出来、県下24カ所市町村で実施すべく展開されることになった。実施主体はあくまで市町村で歯科医師、医師、衛生士、保健婦等による協議会を設置し訪問による保健指導、教育及び応急処置等を実施することになった。県下には約8,500人の在宅寝たきり老人がおり、本年度はその1,000人位を対象としております。特に佐久市がモデル地区として全国7カ所の一つに指定され地元歯科医師会の全面的な協力一致により地域の期待に応え得る成果をあげ、その実績には多大なる評価を受けた。実施するには現場において必ず種々の問題が生じるとは思いますが、歯科保健サービス等の機会を確保するためにも重要な役目の一つとして県歯も前向きに協力していきたいと考えています。こうした活動はボランティアだけでは長続きするものではありません。いずれにしても、

“牛ひかれて善光寺参り”の諺で全国に知られる長野市。飯綱、戸隠の二山を背景に裾花川に向かって開ける景観は、仏都としての落ち着きとしっかりとした雰囲気を含みお残す町である。地元住民には心外であろうが、7年後に決まった冬季オリンピックによって、画一化された他の都市のように変貌するのだろうか？残念な思いもする。

県歯科医師会館は駅から車で5～6分。裾花川にほど近い静かな山裾に建っている。ゆったりと取った敷地に2階建てのビルは、さほど大きくはないが、各部屋も使いやすそうで県歯会館としての面目は充分。

取材にお伺いした日は、今年度の新入会員の方のオリエンテーションを開催中。会長を中心に前方2列に並んだ役員の方々が、会の方針、活躍状況その他を約25名の新入会員の先生方にそれぞれ説明されていた。

その合間をぬって、桐原会長、片桐・山口両副会長、轟専務理事、そして対外PRということで、広報を担当される北川原理事、以上5名の役員の方々に、長野県下の歯科医療事情と活躍状況、今後の展望等を語っていただいた。



事業の遂行には、歯科医師、行政、自治体、関係団体等が一体となり、一層の連携協力がなければ事業の達成は難しいと思います。



副会長／片桐 寿

片桐：私は保険、学術、医療経営管理を担当しておりますので、その概略と意見を。

現在の保険制度は皆さん矛盾を感じておられるようで…。当県の学術研修レベルはかなり高いのですが、それを施す治療を保険内に組み込むことが出来たらと思っております。学術方面は地元松本歯大がありますので、相互に意志の疎通を密にし、広く各種委員会にも教授に入って頂き更に高度な歯科治療の導入を図って行き度と思っております。医療経営管理におきましては、今まではとかく対税対策に走りがちだったのを、歯科衛生士を含めた総合的な医院経営、その在り方を主体に講習会を開催して行き度と思っております。

轟：私は本会と会員並びに県民、この両者の間に立つ潤滑油的な役目が任務と心得ておりますので(笑)。

先程山口副会長も云われましたように、当県の在宅寝たきり老人診療も、現在24の市町村が、制度の導入を考えており、地区によっては既にモデル地区以上の活動を



専務理事／轟 朝五

し、地域の方々から非常に感謝されております。私達の仕事は自分自身の地道な努力の上に成り立つ職業ですので、今日のオリエンテーションにおいても、そうした自覚を強く持ってやってもらいたいと話しました。そうした1人1人の自覚やニーズを私達役員が汲み上げ、それを会という組織としてどの様に対応するか、職員とも一体となって考えていくことが任務だと思っております。近頃世情を賑わしておりますバブル、私達には縁のない話ですが、うらやましいですね(笑)。



理事／北川原 稷

北川原：従来より、広報部には若い部員が多く、若い感覚で会員はむろんのこと、患者さんにも読み聞いてもらおうと各種のマスメディアを使って活動しております。特に対外PRにおいては、テレビによるスポッ

ト、新聞への毎月の突出広告を始めとするマスメディアによるPR、又、地方紙を主体にこちらから絶えず面白い話、歯科医師とのコミュニケーションの話題となるような原稿を送り続けるようにしております。対内PRとしては信州歯報という小誌を毎月発行しておりますので、各会議や学会の報告、モニター通信、各部のPR、その他を冷静な目で正しく伝えること、これをモットーに編集しております。歯科医師と住民が医療を通じて融和を図りお互いの立場を理解し合えることも我々の役目でもあり、又、その時々の問題点をテーマとした特集の企画を通じて会員の理解を深めてもらう事も大切な役目と思っております。

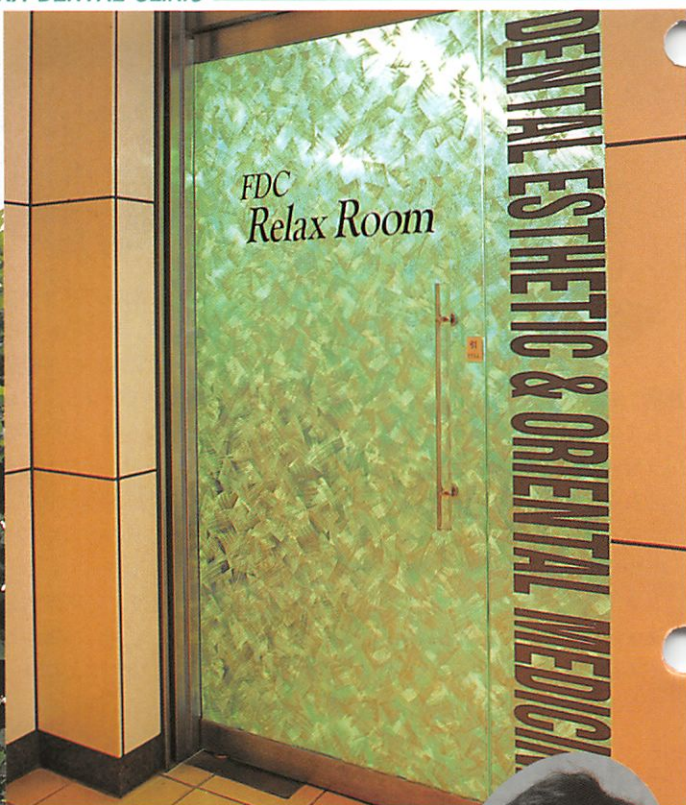
編集：では最後に会長から長野県の将来展望を。

会長：当県が7年後の冬季オリンピック開催地となり、これは喜ばしいことですが、それを機に道路、新幹線等が整備されますと、東京も近くなり、地方にある独自の良さが失われるのではないかと懸念しております。縁あって歯科社会に入ったのですから、共存共生、——共栄は無理だから(笑)——の精神で都市型の良いところと、地方の人情型をうまく組み合わせ共に向上して行き度と思っております。

当県には、大正15年夏軽井沢に逗留中の内村鑑三氏が歯科医師に残した言葉“Dentistry is a Work of Love”があります。この言葉を基本理念とし、愛ある歯科医療を今後も会員と共に推進して行き度と願っております。







医療法人社団 明徳会  
福岡歯科



東京都中央区新川1-3-7 六甲第2ビル

理事長 福岡 明 新川院・院長 福岡 博史







地下鉄茅場町駅から永代橋に向かって徒歩4～5分。新川1丁目の交差点を右に折れ角から2軒目のビルがご紹介の明徳会福岡歯科である。1階、2階が診療室、3階を事務局・医局員室等に使われている。尚、明徳会は当院の他に郵船ビル、祐天寺、サンデンタル・クリニックの4院を擁し、別法人として浦安に4院の技工総てを請け負う(株)ラボ・スクエアを持つ都内でも有数の歯科医院である。

理事長は昭和23年東京歯科医学専門学校(現東歯大)を卒業。翌年福岡歯科医院をご開業。その傍ら慶応大学医学部歯科学教室で臨床と研究に従事する一方、母校の生理学教室、東京学芸大学心理学実験室などで神経生理学及び大脳生理学を修め、昭和33年には大阪大学医学部より学位を受ける、という大変な努力家、実力派である。が、お会いした理事長、「私は学校を出た時以来、“人に好かれること”、これをモットーとして生きて参りましたので、今でもたとえ相手が年下でも頭を下げ、良き友人となるよう努力して来ました」と云われるだけあって、やさしい笑顔と明るい会話が聞く側を飽きさせない、魅力的な先生である。また外部の活動においても三面六臂。日本歯科東洋医学会会長や東歯大、松本歯大、明治鍼灸大の講師を初め、医療管理学会、催眠学会の理事等の役職にあると共に、講演や著作活動でも大活躍。ご存知の読者も多いことであろう。

特に東洋医学の経絡、経穴の特性を応用する従来の低周波通電法・歯科無痛治療TEAS

(Transcutaneous Electrical Acupuncture point Stimulation)を更に押し進め、歯科医が日常臨床の中で、簡単に行えるFD-TEASによる通電歯痛鎮静法を研究し患者の痛みはもとより、恐怖、不安感をとり除く機器を開発、歯科医療界に新しい光を与えている。尚、誌面の関係で今回はお知らせ出来ませんので、詳しい内容をご希望の先生は左記の住所に直接お問い合わせ、診療に役立てて頂き度いと存じます。

今回は、同法人4院の中で永年の実績・経験を活かし、将来の展望を踏まえてご子息博史氏が中心となって作られた新川院をご紹介します。

グレーの10階建のビルを入るとすぐ右手が診療所。ドアには横書きでFDC Relax Room、縦書きでDENTAL ESTHETIC & ORIENTAL MEDICINEと書かれている。リラックスルームだけ見ると喫茶店かなと間違えそうな表示であるが、それだけに院長のこの診療所にかかる心意気がかがえるようだ。

待合室はグレーの床に、淡いダークグリーンの椅子と窓には同色のブラインド。半円形の受付後部には貼り紙が。「私たちは、いつも笑顔をやささぬよう心がけています。でもときには忘れることがあります。そんな時は声をかけてください。『君、笑顔がないよ!』と」書かれている。笑顔がスムーズな人間関係を促し、安心感の根源であることを、医院側

から訴えかけていると共に、日々笑顔で生きることが幸に通じることへのメッセージ。無言でコミュニケーションをさりげなく伝えている。先述の理事長の言葉が院内にも活かされている。

待合室から段差をつけて診療室へ。道路側手前に相談室と患者さんを治療前後にリラックスさせる「ボディー・ソニック」が置かれている。続いて曲線の間仕切りに囲まれたユニットが3台。濃いグレーとパープル色のツートンのスマイリー<ファインL型>である。床は細い木目を使用。

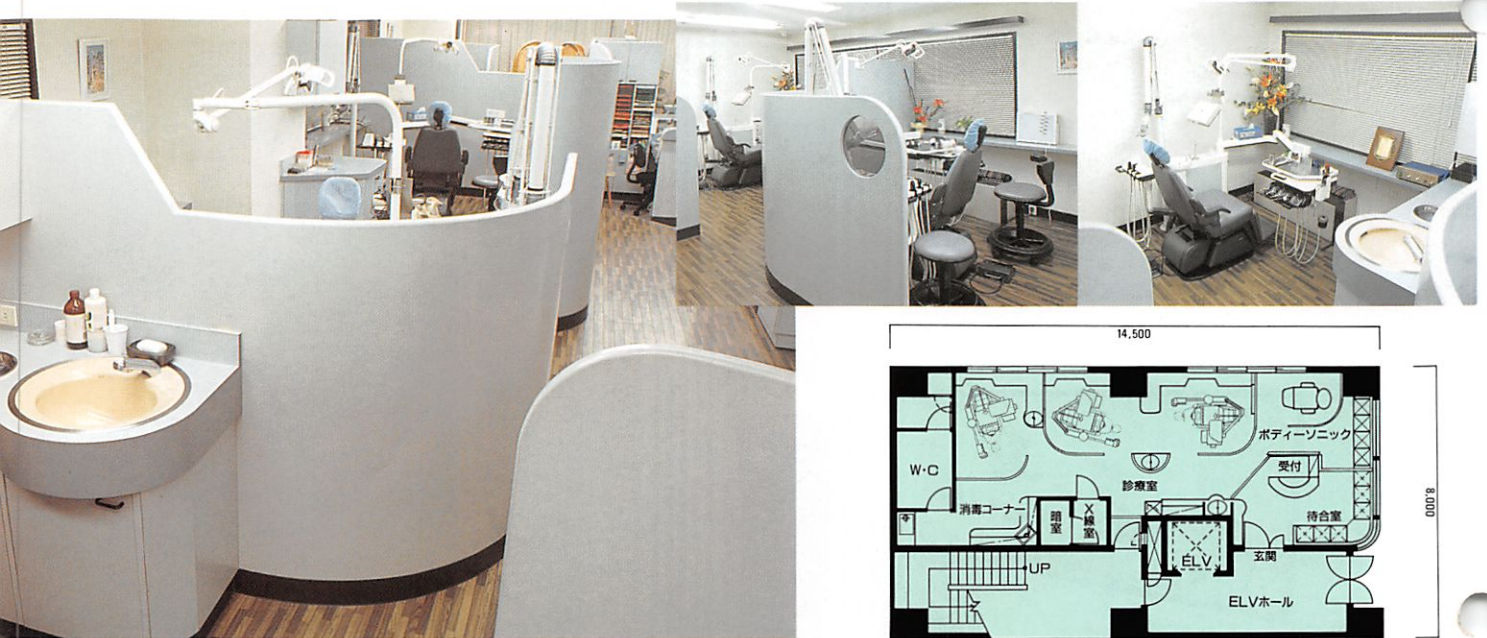
院内は豪華ではないが、都会人好みの洗練されたインテリア。爽やかな印象の院長にふさわしい医院である。

Q：実力のある著名な父親を持たれてのご感想は(笑)。

院長：昔も今も厳しい父ですが、助かるのはいつも同じ場所で診療していないことかな(笑)。他院でよく聞かれるような父子断絶はありませんね。卒後色々な医院また大学で勉強し、今回この医院をまかされたのですが、院長となりますと経営も考えなければいけませんし、現制度下では医療人としての生き方と、両立して行くことは難しいですね。今は2代目の世の中ですが、貴花田ばかりではありませんから(笑)。

Q：インプラントや咬合など各種のサーティフィケートをお持ちですが、それ等とお父様の専門である東洋医学、この兼ね合いは？





院長：私も西洋医学の第一線を学びつつ、父と共に東洋医学の共同研究をしております。後者はどちらかと云うと人間そのものを診るという方向ですので、その中で分野別に分かれた歯の治療をどのようにドッキングさせていくか。巾広く全身をとらえるという意味で非常に良い勉強になっています。

Q：Relax Room。めずらしいし、思い切った表示ですね。

院長：ええ、とにかく歯科医院は怖い、痛い、不安というイメージがありますから、それをまず取り除こうと。視覚的にはインテリアは出来るだけ曲線を取り入れると共に、テレビも美しい風景を常に流し、入って来た時からゆったりとした気分になれるようにしました。聴覚はボディーソニックとバイオミュージック(BGM)、嗅覚は木の香りが全体に流れるようにしてあります。又、各ユニットには低周波通電器をつけツボ通電を行うという、五感総てをリラックスさせてから治療する。それでこの室を歯科診療所とせず、リラックスルームと表示しました。

Q：都会の真ん中での開業。今後は？

院長：やはりこれからの歯科医院は技術内容ばかりでは生き残れないと思います。本当のサービスとはを考え、そうしたソフト面を診療体系の中いかに組み込み、プラスアルファをつけるか。そうしたことに敏感な都会人の心をいかに掴んでいけるか

が大切だと思います。今迄とは違った考え方の発想が必要なのではないでしょうか。

Q：スマイリー<ファインL型>いかがですか？

院長：ショールームに行き色々調べましたが結局これに落ち着きました。L型は治療時(特に咬合を診る場合)にしっかりと足をふみこんで安定し落ち着くので選びました。パープルは以前なら考えられない色でしょうが、これは伸びて行く色なんですよね。ユニットが先に決まりインテリアも実はこのユニットに合わせて作り上げたのです。

Q：最後に理事長先生にお聞きします。歯科東洋医学の真髄とは？

理事長：一言で云えば「氣」です。西洋医学

では固体と液体の2つしか認めておりませんが、東洋医学ではこれに気体を入れます。気体の医学とは即ち自分が実感として感ずることが、そのまま相手の共感を呼ぶことです。単に部分(歯)を治すのではなく、相手の全身に「元氣」を与えること。それは人間を大切にすることにも通じることなのです。若い優秀な方々が広い哲学的視野に立って人間を全身から診る。西洋と東洋がうまく融和する日本の中にあって、私の研究が今後の歯科医療の前進の一端になれば、と願っております。

多数の著書の内、頂いた2冊の本に「愛は氣なり」とサインがあった。







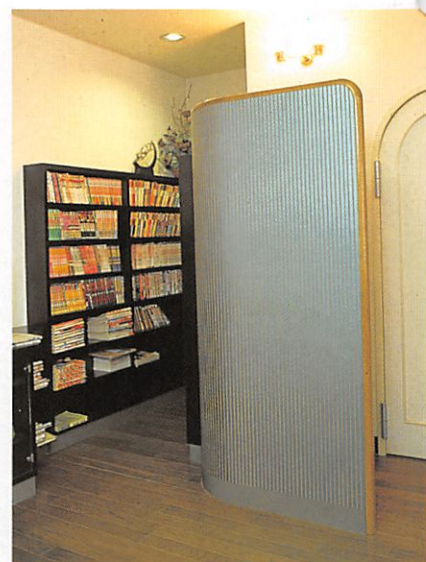
# ホワイト歯科医院

熊本市若葉1-1

院長 中西久人







北東には阿蘇の連山がゆったりと横たわり、西には紺色を映す、輝く有明の海が。元NHKアナウンサー鈴木健二が、他の都市は美しい景色が点として存在するが、熊本は面として広がっている。車窓でも仕事を忘れて思わず見入ってしまう、と何処かで語っていたが、確かに都市でありながら、自然と造形がこれほどうまく調和している街もめずらしい。

ご紹介の「ホワイト歯科医院」は市の中心部にある熊本城から東に向かって車でおよそ20分、市電の終点である健軍(けんぐん)停留所の前、広い商店街の角地に建っている。4階建ての前面壁面一杯にネオンサインで「White Dental Clinic」の文字が。夜間にはいやでも(?)人目を引くに違いない。

1階が診療室、2～4階はスタッフの寮及び貸マンションに利用されている。

待合室は細い木目の床、曲線で作られた窓に沿って黒の椅子がおよそ12～13脚並ぶ。一角に段差をつけて2帖ほどの畳を敷き、お年寄り、幼児向きのコーナーを設けている。天井、壁は白であるが、下足箱、スリッパ入れ、本棚、椅子等は黒で統一。木目の床と黒がしっくりと合って、落ち着いた雰囲気を醸し出している。

診療室内は、中央通路左面にX線室、消毒コーナー、技工室、特診室等を配し、右面窓側には、4台をセパレート式、4台を並列式にした<スマイリーGM>が設置されている。



診療開始40分前(11時開院)だというのに、待合室には10人前後の患者さん、院内ではスタッフ一同が各自の持ち場に入り、今日の診療予定に沿って準備をされていた。

商店街の一等地にこれだけの建物を構えている医院、院長はかなりの年輩の方を想像していたが、お会いして驚いた、今年37才という若さ。医院の実力、評判の良さがわかるような気がする。

院長は東京歯科大学を卒業後、義兄にあたられる大船(神奈川県)の中村歯科医院で4年、沖縄の山川歯科医院で2年勤務医を経験。昭和60年4月、生まれ故郷ここ熊本に帰り開業に踏み切られた。

**Q：建物、環境共申し分ないですね。**

院長：初めは前のビルにテナントで入り開業しましたが、家賃は年々上がるし、どうせ苦勞をするなら少しでも若く体力がある間

にと…。一昨年この土地を買い建物を建てました。借入金があれば他に逃げられないでしょ。清水の舞台から飛び降りる気持ちで…(笑)。

**Q：歯科医師は初代ですか？**

院長：ええ、父は内科の勤務医でしたが、今は隠居しております。歯科医になったのも父親の勧めで…。これからは医者で開業するのは難しいが、歯医者ならまだ大丈夫だろうと。開業当初は不安ばかりでしたが、だんだんと感触が掴め始めまして、4年後、チョット無理カナと思いましたが、貸してくれる(お金)ということで…。今のところ順調でホッとしているところです。

**Q：スタッフ数と患者数は？**

院長：スタート時にはユニット4台、スタッフは5名でしたが、今はユニット9台、スタッフはドクター3名共で総勢15名です。患者数は1日120～150名位です。

**Q：多いですね。スタッフ教育については？**

院長：特別これということはありませんが、私自身全員に目が行き届かないので、ドクターごとに班をつくり、その中でドクターを中心に各々勉強、指導等を行うようにしております。

**Q：朝は11時から、昼休みを3時から4時半、夜は9時まで受付と、ちょっと変則ですが、やはり患者層の関係ですか？**

院長：この辺は新興住宅がどんど





増えて来ておりますので、その方達の為に。私は技術的にも人間的にも人より優れておりませんので(笑)…、自分の力が職業を通じて社会に貢献出来るのは、と考え夜間診療を大幅に広げました。終わるのは10時を過ぎますが、今の時代は夜働いている方も相当数いるわけですし、時代の要求に我々も応えるべきではないでしょうか。夜間診療は云々、と地域によっては云うところがあるようですが、熊本はその点規制もありませんし、自由な風気があり助かります。もっとも昔から、私の生活スタイルは午前中はポーとしていて頭の回転が鈍く、夕方から夜がベストなんです(笑)。これが理由の第一かな(笑)。

Q：それで女性スタッフの為に寮を用意されているのですね。

院長：ええ、今8人程入寮しております。良い人を揃えると共に定着率を良くするためには多少の出血はやむをえません。歯科医院にとって一番の財産はスタッフですから…。

Q：診療室を作られるにあたって留意された点は？

院長：土地の形が限定していますので、横長になる診療室をどのように割っていかうかと…。プライベートを守りたいと思う層は手前のセパレーションの中で…。開放的な方がスムーズに診療出来ると判断した層は奥側の並列ユニットに座ってもらいます。色彩については、私はハッキリした色が好きですし、医院としての特徴も出ると思い

ましたのでその様に…。もっとも私の性格上、専門家である設計士の出されたものにはほとんど何も云いませんでしたが(笑)。

Q：保険と一般どちらが多いですか？

院長：90%以上保険です。しかし都会地と人件費や材料はあまり変わりませんから、一般の少ない地方の医院は次第に苦しくなるでしょうね。云っても仕方がないとは思いつつも、矛盾を感じますね。

Q：将来は？

院長：人間自分1人ではたいしたことは出来ません。代診の先生を含め良いスタッフを揃え、それぞれの専門分野を充実させ、あそこへ行けば大丈夫と云われる歯科の総合病院を目指して行きたいと思っております。

Q：オサダというメーカー、又スマイリーGMを選ばれた理由は？

院長：夜間診療をやっておりますので夜も遅いのですが、こんなに一生懸命やってくれるメーカーはありませんよ。値引きはないが、その分アフターが万全。その方が後々ずっと良いですからね。GMについては、勧められたから(笑)。でもすごく使い易し、ストレスは全くなくなりましたから良かったですよ。

Q：友人、知人にコメントをどうぞ。

院長：私は東歯大ですので、九州では少ないのですが…年一回集まる同級のグループは全国から来ます。集まれば学生時代が一番たのしかったという話になりますが、逆に今はそれだけ悩みが多いということですね。年一回集まって、昔にもどって話し、遊ぶのをたのしみにしています。皆さんも身体に気をつけて元気で頑張ってください。









# 尾崎至郎先生 の巻

千葉市仁戸名町368

「人がこの世に生を受けた事で最も大切なことは“健康でより豊かな社会の一員として生命を全うすることである”。その為にいま我々歯科医師はどのような行動、手助けをしていくべきか、真剣に考えなければならない」と話される。医師としての使命は「患者さんを診ることによって生活をしているのであって、生活手段の為に診ているのではない」と云い切る。まさに医師でなくても、自らが何故生きているのかを知ることへの名言である。

今回は横浜市歯科医師会専務理事をされている小島哲先生のリレーにより、千葉県歯科医師会副会長の尾崎至郎先生から、歯科医師としての生き方を基本に、組織、環境、打開の為の考え方等、多方面に亘ってお話頂いた。

まず読者の方々が最も切実に考えておられる保険制度の在り方については「もともと保険制度は、先述のように人々が健康でより豊かな生活を営む為にはまず平等に医療行為が受けられることを前提に設けられたもの。即ち資力のない人が、それ故に医療を受けられないと云うことを解消すべく設定されたものです。従って保険制度の基本は、被保険者と保険者の相互扶助によって成り立つことを前提に発足したものであったのです。しかしながらご存知のように医学・医術の高度化や、疾病構造の変化等、医療のメカニズムが時代と共に大きく変わって来まして、国民の医療に対するニーズにも変化を来す様になり、行政の求めた国民皆保険制度もおもむきを異にし、国民感情も保険料を払っている以上、昔なら売薬で済ませた疾病への対応に保険制度を有効に利用しなければというような風潮に加え、急速な高齢化社会の到来とあいまって保険制度そのものに当然の如く歪みが生じるに至った」。そこで今一度医師としてそれに対処するためには「医師としての本来の姿——医学とは何か？ 誰の為

にあるのか？ 我々の目的、使命とは何か？ それ等の基本を踏まえた上で対応する必要があると同時にその自覚があればこそ我々は以前から取り組んだ、公衆衛生事業・歯科保健事業・地域歯科医療事業・更には学校歯科保健事業等、国民への奉仕活動を続けることに、新ためて自負を抱くと共に、それが現在の各種制度上で果して正当に位置づけられ、保障されているのか、又かかる事柄が国民との間に充分なるコンセンサスを得られているか、どうか等確認を急ぐと共に、これ等を確かな形で訴え、問題を解決すべきだと考えるのです。「給付外診療の制度化問題にしても、高度成長期ならいざ知らず、現状下では社会全体(国民の受給権の平等の原理)として受け入れられる要素があるのか？ 私



は保険本来の姿——即ちお金持ちと困っている人との相互扶助の関係にもう一度もどって考える必要があると思うのです。一度制度化されるともには戻せないと多くの危惧されるべき問題点を指摘しながら話される。「又、その為には対外PRもさることながら歯科医師と国民を結ぶ政治家(真に歯科医学・医療を理解する)の育成を、市町村会から始まり国会まで1人でも多くの議員を送り出すこと。そして真の政治・経済・法律の各専門家を含めた臨・学一体となった理論武装のもとで明日の歯科医療を構築すべきである」とも。

お生まれは和歌山県新宮市。教育者の四男として育ち、次兄に続いて日大歯学部へ。昭和35年卒業。良き恩師、先輩に歯科医師としての使命感を教えられ、昭和38年開業。

育った環境、風土。これぞ紀州人と思わせる豪放磊落な風貌と歯切れの良さ。ご本人は、見かけよりずっと神経質なんですよ、と笑わ

れるが、大局を見、筋道を立てて話される言葉は、市歯科医師会長、県歯科議員議長、日歯科議員、日歯政連副理事長等の役職を25年近く歴任されて来たことでもおわかりのように説得力と正義感に裏打ちされている。

若い会員の方々に「温故知新」。私達が現在ありますのは、先達がその時流の中で一生懸命考え、築きあげた上にあることをよく知り、その中からこれから進むべき道を常に新たに模索していくことを身につけて行って欲しいですね」とも云う。「そして会への参加も、上意下達の発想から抜け出し、1人1人が我々会員は今こそ会の為に何をなすべきかを優先する中、先の国民への奉仕活動等を通してより積極的な信頼関係を作り上げる事が第一義。そこで初めて国民の支持を受けることが出来るのではないのでしょうか。権利



と義務は常に表裏一体なのです」と訴える。

会への活動の為にご本人は1ヶ月11~12日間は外出されている様子。その為には時には日曜、祝日も開院。やっと思院並みの19日~20日間は診療をされている、と聞く。「会の役員をしているからと患者さんに云い訳は出来ません。歯科医師として本来の仕事を全うしてこそ、初めて役員としての責務を果たせるのではないのでしょうか。」

その他医療法改正の問題、国民医療総合対策本部の中間答申の中身、歯科医師過剰問題、現在の学校教育の在り方、私立歯科大学の運営等、過去から未来まで、多方面に亘って長時間お話を頂いたが誌面の都合上お伝え出来ないのが残念。ただ最後におっしゃった言葉「私達は今こそ対内・外を通して、広範囲に物事を考え、見、そして意識の改革をすべき時に来ている」と云われた言葉が現在の歯科医療界の全てを表わしているような気がした。



# トピックス



## わが国初の 「医の博物館」を訪ねて。

日本歯科大学新潟歯学部  
館長 中原 泉

明治開化と共に、欧米に追いつけ追い越せをモットーに海外から文明を取り入れた日本だが、こと文化に対してはかなり無頓着に生き、又教育されて来たような気がする。高効率、高い経済力も良いけれど、国際社会が発達し、各国との交流も一段と増した今、こうした文化、せめて携わる職業についての歴史的背景を筋立てて話せることは身につけたいものである。

ご紹介の「医の博物館」は16世紀から20世

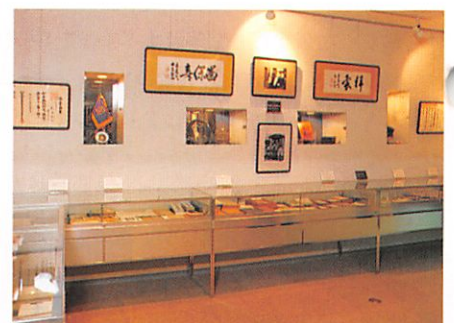
館長 中原 泉



開館日：月～金曜日

開館時間：10:00～16:00

入館料：16才以上100円、15才以下50円





紀に至る歯科を中心とした医学医療に関する資料館で、古医書、浮世絵、医療器械器具、また長い歴史を誇る日本歯科大学の記録等が展示されている。日本では初の医学博物館である。旅行や各種講演会等で新潟方面に行かれた際にはぜひ一見をおすすめしたい処である。

又、当大学の学長であり、館長を務める中原泉先生は、こうした博物館には必須条件である国の認定したライセンス、「学芸員」としての資格取得勉強をされて来た方だけに、史学に対する造詣も深く、超多忙な学長であるが、時間が許せば自ら説明もして頂けると聞く。

わが国では数少ない広い見識と心のゆとりを持つ文化人のお一人である。

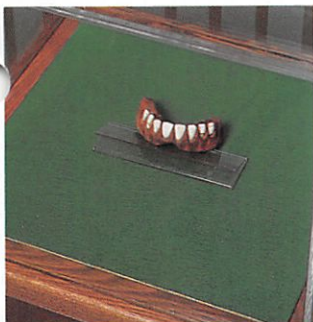
「15年～16年前から医・歯に関する資料が各方面から集まって来まして、倉庫に保管してあったのですが、こうした資料はそれに携

わる人はむしろのこと一般の方々にも公開し、知識と理解を深めてもらってこそより意義があると思い一昨年9月開設しました。総て篤志ある方々からの寄贈ですが、開館を知り今まで眠っていた貴重な資料が毎年各地より寄せられ、内容も充実して参りました。ただ、スペースが50坪ですので、展示品にも限度があり、それが残念です。来館者は昨年は約2000人余りでしたが、今年は、8月だけでも記帳者が200人以上となりましたので、同伴者を入れますとかなりの数になることと思います」。

「海外では私の知る限りでは、ボルティモア国立歯科歴史博物館(メリーランド州)、ハートフォード(コネチカット州)のホーレス・ウエルズ医科歯科博物館、パリのピエール・フォシャール博物館などがありますが、日本では大学などの資料室を除いては医療史料の専門館は当館だけではないでしょうか。当大

学でも、歯科概論・歯科医学史の授業時間閲覧させておりましたが、医学に対する良い動機づけ、啓発になっているようです。もし時間がとれるようでしたら、若い先生方、又将来医学の道に進ませようと思っておられるご家庭の子弟の方々にも見せて頂ければ、心に何か、必ず役立つものが残ると思います」と熱心に各コーナーをご説明下さった。

ローマ医学の権威であったC・ガレノスの「脈拍入門」(1550)、近代外科学の祖A・パレルの全集(1607)、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスの全集(1652)、歯科医学の父といわれるP・フォシャールの「外科歯科医」(1728)、わが国最初の近代解剖学の翻訳書である「解体新書」(1774)、E・ジェンナーの「牛痘の研究」(1798)、生物の進化論を唱えたC・ダーウィンの「種の起源」(1859)など、昔教科書でしか見たことがない写真の原本がここにあった。まさに一見に値する資料館である。



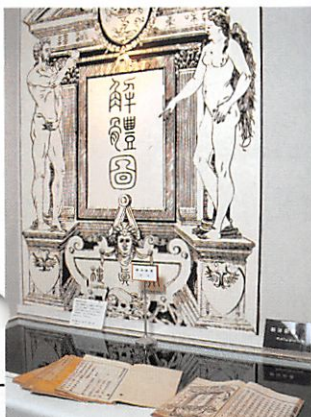
木床義歯



象牙の義歯



御歯黒のあるゴム床義歯

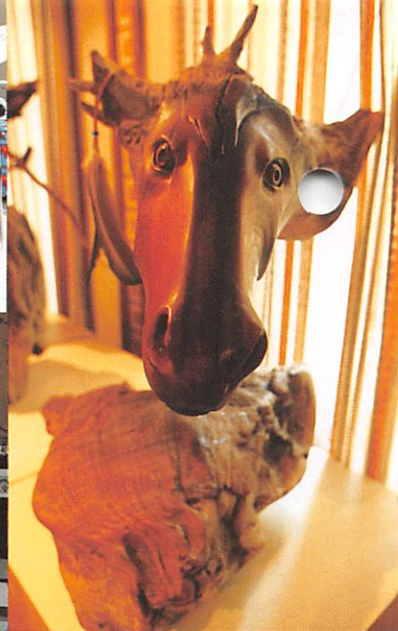


杉田玄白他による解体新書(原本)



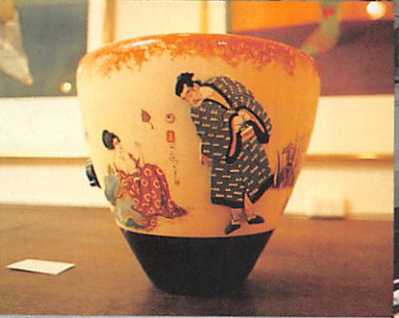
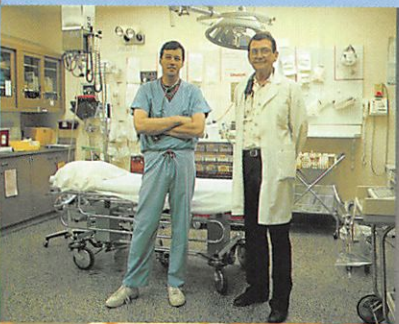
ヒポクラテス全集(原本)





海外だより

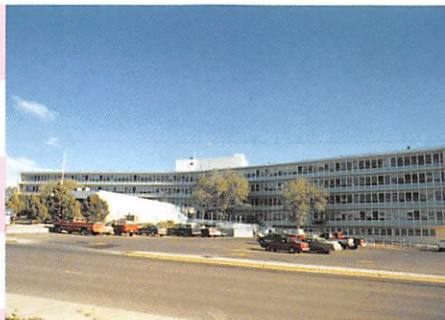
★ Native American — Indian — ★  
★ 「ネイティブ・アメリカン(イン) ★  
★ 衛生の心得を探って—(その2) ★



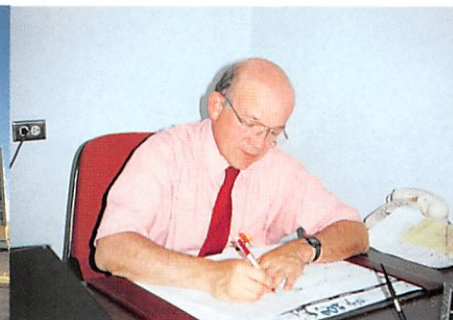




審査中の著者



インディアン・メディカル・センター



Dr. Timothy Fleming

前号でこの記事の「その一」を書いてから、私は再度ニュー・メキシコ州に飛ぶこととなった。私の取材ぶりのせいかどうか知らないが、「第70周年インディアン・セレモニアル」の審査員にこの私が推薦され、皆が「それは大変な名誉だ!」と口を揃えるので、怖いもの知らず(?)の私はまたノコノコ出かけたわけである。

着いてから、この年に1回のインディアン

そして私がつくづく感じたことは、これ(自然と自由)こそ彼らの、いや私達人間の「衛生の原点」ということであった。近代文明は物質的恩恵をもたらしたものの、人的掟で私達を金縛りにし、病める地球をもたらしている。自然破壊を前提とする文明は、遅かれ早かれ私達の健康も破壊する、ということであった。

自然の一部として、自然と一体となって生きてきたこれらの人達にも、この破壊を前提とした近代文明の波が押し寄せている。その矛先は、先にあげたインディアン伝統工芸品に目をつけたビジネス界だ。價格的にもアクセサリとしても、庶民に最も親しまれ易いインディアン・ジュエリーなどは、全米で今年年間6億から8億ドルのビジネスとなっている。うちニューメキシコ州だけでその半分、それにアリゾナとコロラド州を合わせると、全米のインディアン・ジュエリーの75%のビジネスがこの地域で行われていることとなる。

インディアンにとって、自分達が製作する物がどんどん売れるのは素晴らしいことだ。しかし、それと並行して自然破壊を前提としたライフ・スタイルが入ってくる。肥満、高血圧、糖尿病、そしてアルコール中毒、更にアルコールが引き金の暴力、その他に依る事故が増えている。オーラル・ヘルスも全米平均レベルを驚く程下回る悪状況だが、他の病状のように目立たないこと、命に別状はないという意識、口内の病と体全体の健康関係についての知識の乏しさから、口内衛生管理は殆ど無視されている模様だ。他の「目立つ」近代病に関しては、米連邦政府の啓蒙活動もあって、インディアン間で近年それらにたいする意識も向上しつつあるが。

#### 「インディアン・ヘルス・サービス」

連邦政府管轄下のインディアン・アフェアーズビューローが、インディアン居住地を中

心としてインディアン専用各医療施設を運営しており、インディアンは無料で医療を受けることが出来る。

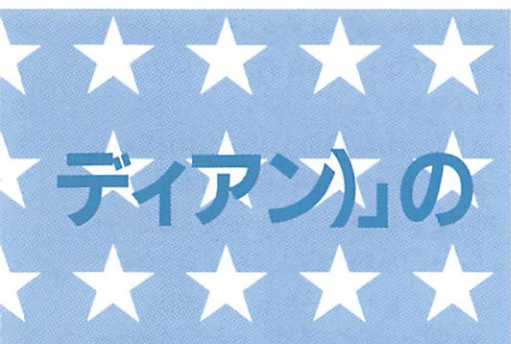
私が今回「第70周年インディアン・セレモニアル」の審査員として参加したこの祭典の開催地ギャロップ市(ニュー・メキシコ州)にも大きなインディアン・メディカル・センターがある。スタッフ数610人、医師65人(うち4人程がインディアン)、ナースは120人でその半数はインディアンのナース。プボニー家が寄付した13エーカー(約1万6000坪)に建つこの大病院は1961年にオープンしたというから、今年で30年になる。

ディレクターのティモシーG. フレミング医師(以下F医)に依ると、年間外来患者数は16万人、入院患者は2万2000人、手術は3200件、出産は1200件という。

この病院には、内科はもとより眼科、耳鼻科、咽喉科、外科、小児科、歯科その他と全ての部門の施設が備わっている。一番多い病状は糖尿病で、「驚く程のスピードで増えてます」とF医は云う。糖尿病の為に、腎臓不振になったり、足を切断せねばならなくなった患者の数も少なくない印象を受けた。

10年程前からインディアンの食生活に凄いスピードで侵入してきたジャンク・フードが、彼らの健康をどんどん蝕んでいる模様だ。居住地インディアンの主だった生活費は、食費と交通費だけで、あとは政府の補助金で運営されている。トウモロコシと豆は今でも栽培しているが、羊を飼うインディアンの数は減るばかりである。畑仕事は減り、羊の後を追って歩き回ることも無くなり、遠出も歩いたり馬で行ったりする代わりに車を使うようになったので、明らかに運動不足のインディアン達が増加し、健康上の悪循環となっている。

病院内で見かけるインディアンの外来患者やワーカーは、見かけは普通のアメリカ人と



祭典の規模(全米最大)と、36種目からなる絵画部門審査員のひとりという責任の重さ、更にこの祭典70年の歴史で私が初めてのインターナショナル審査員と知ってタジタジとなったが、もちろん後の祭り。

しかし、背水の陣で事に当たれば案外物事は結果につながるもので、今回もその例に洩れず、多く感じ「ザ・ピープル」(インディアン)についてより深い理解を得ることとなった。

1週間、毎日この人達の手で作られた壺や織物、絵画、彫刻、バスケット、ジュエリー、ラグ類に囲まれ、更に彼らの儀式的ダンス、パレード、等を参観して、私は彼等の「自然」とその「自由」に今更の如く目の覚める想いだった。作品のどれをとっても魂が伝わってくるようで感動した。それらは、「好きなだけ自由に時間をかけた」作品であり、鳥や動物達は「兄弟」として登場し、彼らの宇宙観を物語っていた。技術の素晴らしさにも舌を巻いた。

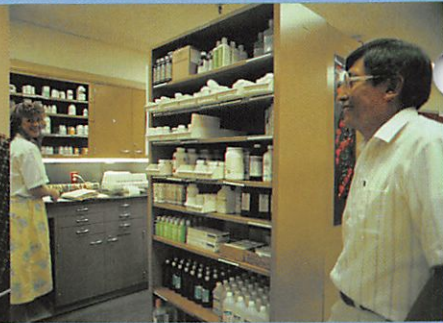




ACL(Acoma-Canoncito-Laguna)病院



看護婦主任のMary Boyland



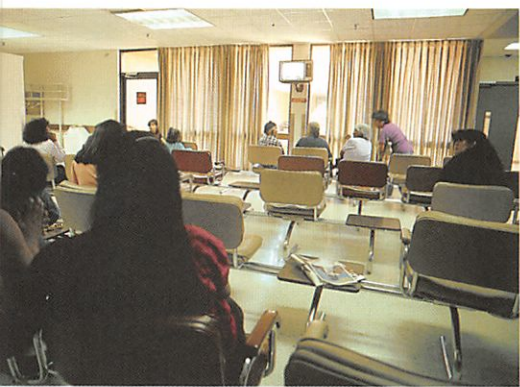
薬剤師のKurt M.Riley(写真右)

変わらない。褐色の肌で、ブルー・ジーンズ、スーツ、ドレス姿の彼らは、人種のモザイクの都市NYですれ違ってもインディアンとの意識を与えることはない。女性の中に、大変ファッショナブルで大胆なデザインのメガネをかけている人が目立つ。その事にふれると、「彼ら若い世代は大変ファッションに関心が強く、メガネや歯にお金をかけますね。旅行に出かける若者が増えたので、外部の影響でしょう」とのことだった。また、教育レベルも上ってきており、「20年前には考えられなかった」インディアンのプロフェッショナル（医師、エンジニア、弁護士等）も増えている、とF医は云う。

ところで、表面的には変わらなくても、水面下の文化の相異には歴然たるものがあり、病院側の苦勞も並大抵ではないらしい。たとえば、言葉通り「自然と共に」生きてきた彼らの時間の観念は、私達のそれとはかけはなれたものだ。アポイントメントに姿を現さない、その日に行かない、電話連絡もないという。

「外部との経済交流が進めば、これも徐々に改善されるでしょうがね」と、F医は達観的だ。しかし「インディアンの文化、米政府の文化、そして医療の文化と、3つの異なる文化の中でやっているのも楽ではありません」と、疲労の色は隠せない。

彼の部屋に軍服がかかっている。これは週



に1日、連邦政府の規定で「軍服を着る」ことになっているからという。どの日に着るかは個人の自由。彼は水曜日に着ているようだ。米政府の無言の権威表示の為らしい。

アコマ・インディアン居住地のアコマにあるパブリック・ヘルス・サービス病院は、アングロ間ではPHS病院、インディアン間ではACL (Acoma-Canoncito-Laguna) 病院と呼ばれている。南西部では、人種を大きく3つに分けて、インディアン、スパニッシュ、その他は全てアングロと呼んでいる。私達日本人も、南西部ではアングロだ。

このアルバカーキ市から60マイル地点にあるACL病院は、1978年にオープンしているが、ヘルス施設を作る検討は1969年からインディアンと連邦政府の間で始められている。アコマ、キャノンシト、ラグナの3つの居住地（74万エーカー）のインディアン対象ヘルス施設で、スタッフの90%はインディアン。私が話を聞いた主任看護婦のメアリー・ボイルランドさん、薬局主任のカート・ライリーさんもインディアン。

ここでも殆どの医療部門設置が整っており、その他、メンタル・ヘルス、ソーシャル・サービス、スペシャル・ニーズ・サービス、ヘルス教育なども提供している。緊急事態の際にはヘリコプターで対処する。

此処でも糖尿病が真先に話題となった。昔は55才位からだったが、今ではどんどん若い人達がこの病気になる。癌も昔は殆どなかったが最近増加している。心臓病も癌と同様で、近年発生し出した病状だ。アルコールやドラッグが若者間の問題となってきている。また、教育や仕事の為の外的世界で数年過ごしたインディアンが、居住地に戻っても、もはやその生活に馴染めず、居住地内でのギャップ発生原因となっている。あれやこれやで、近年若者の自殺が増加している、といった痛

ましい話ばかりだ。

しかし、看護婦主任のメアリーさんも、薬剤師のカートさんも、その他のインディアン・スタッフも皆驚く程明るい。開放的で、人なつこく此方の話ののってくれる。腎臓不振の人達用のダイアリシスという機具が6台備わったルームからその他気軽に案内してくれる。

歯科の事務員は可愛い女の子達だったが、その中の1人など、私の手をとらんばかりに治療所の壁に所狭しと貼ってあるポスターの前に連れて行き、「これ、私が描いたの」と教えてくれる。

ACL病院は応急手当てや限られた数の入院患者も扱うが、治療の中心は外来で、1日平均150人の外来を3人の医師でこなしているという。「出来れば8人（医師）欲しいのですがね」とメアリーさん。歯科部はアングロ歯科医が2人で、週平均118人の患者の治療に当たっている。歯科部のアシスタントは4人で、みなインディアン。ACL病院はこの周辺75マイルに在るただひとつの医療機関だ。

メアリーさん及び歯科医のポール・ブルース医の話では、此処の患者の90%の治療は虫歯とガムという。2才位から虫歯となるそうで、その主な原因はボトル・フィーディングとされている。母乳という自然から授かった手段からボトルに切り替える女性が増えているのは、メアリーさんに言わせれば、「その方がファッショナブルで恰好いと思つてのことでしょう」となる。

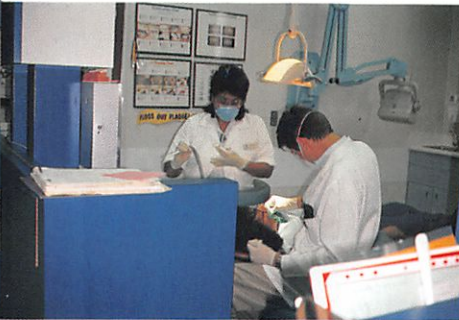
こういう話を聞けば聞くほど、私は日本のことを想ってしまう。この人達も近代経済大国の日本がたどった道をたどることになるのかと。

ところで此処で一寸脱線し、全米インディアン人口の歯科事情について、かいつまんで





歯科医のDr. Paul Bruce



書くこととしたい。現地取材では入手不可能だった情報を、後から政府その他に連絡し、電話インタビューで取りつけた情報・資料・コメントである。この段階で1992年度の「インディアン・ヘルス・サービス・デンタル・プログラム」用米議会公聴会の分厚い背景資料を送ってくれたインディアン・ヘルス・サービス口腔衛生局のウィリアム・バーンズ医、メリーランド州インディアン・ヘルス・サービス（歯科部）のフランク・マーティン医、ニュー・メキシコ州のショウズ医には特にお世話になった。膨大な情報資料を出来るだけ簡潔にまとめてみると次のようになる。

◎全米のインディアン人口数は110万人と推測されるが、実際はこの数を相当上回るの  
は確かと見られる。推測人口数の1/3が年  
間に何らかの歯科治療を受けている。

◎インディアンに最も多いのは、虫歯とペリ  
オドンタル(ガム)の問題。全米の子供達の  
虫歯は、80年代にぐんと減ったが、90年代  
になってもインディアンの子供達の虫歯は  
いっそうに低下しない。ペイビー・ボトル  
がその最大の原因だ。小学校に上る前のイン  
ディアンの子供達の50%がボトル原因の  
虫歯にかかっている。年齢グループで比較  
すると、12才のインディアンの子供達の虫  
歯は全米12才の子供達のそれより2倍半も  
多い。17オレレベルでも2倍の虫歯となっ  
ている。

0才~19才の年齢層のインディアンの  
58%が、既に少なくとも初期のペリオドン  
タル・ディーズにかかっている。20代の  
初めとなると、5人中2人以上のインディ  
アンが、口中1/3以上にわたる骨喪失につ  
ながる破壊的ディーズにかかっており、  
50才になる迄にインディアンの80%以上  
が、ある程度、または極度に口中の骨を喪  
失している。

全米人口の70%の虫歯は治療されるのに

比べ、インディアンの虫歯の53%しか治療  
されない。

◎口腔衛生問題は、グループ(族や居住地)  
に依っていささかの变化は見られる。しか  
し、糖尿病にかかっているインディアンは、  
どのグループでもペリオドンタル・ディジ  
ーズにかかる率が俄然高くなっている。

全米55%の人口の飲み水はフッ素化され  
ているのに、インディアンのそれは30%に  
も満たない。

◎インディアン・ヘルス・サービス機関のデ  
ンタル・プログラムは米国33州にわたり、  
従業員は1,100人、うち歯科医は420人、デ  
ンタル・アシスタントその他がちょうど  
600人。この中、インディアンの歯科医は4  
人だが、アシスタントの殆どはインディ  
アンである。45人のデンタル・ハイジニスト  
の中にはインディアンは殆どいない。

ニュー・メキシコ州でこのプログラムに  
従事する歯科医は30人、アシスタントは殆  
どインディアンで45人。

このプログラムはまた、インディアン歯  
科医養成を促進し、歯大に進学するイン  
ディアンに学費、その他のスカラシップを提  
供している。

◎インディアンの歯の特長は日本人、中国人、  
特にモンゴリアンに類似しているところか  
ら、彼らは古代に蒙古地域から来たと想定  
される。厳寒環境なので、それに対応する  
為、モンゴリアンのメタボリズムは、体内  
に素早く脂肪を蓄積するようになってお  
り、インディアンも同様のメタボリズムを  
持っている。

以前のインディアンは筋肉も引き締め  
り、強靱だった。厳しい荒野で生き抜いて  
いたからだ。しかし、現代の彼らはもうそ  
うでない。居住地で援助をされ、保護され  
ての生活で、それらを失ってしまっている。  
ポップ(ソフト・ドリンク)やアルコール

は、彼らの体内の免疫システムを弱らせ、  
運動不足は血液中の糖分をより高める、と  
いう悪循環の生活となってしまった。

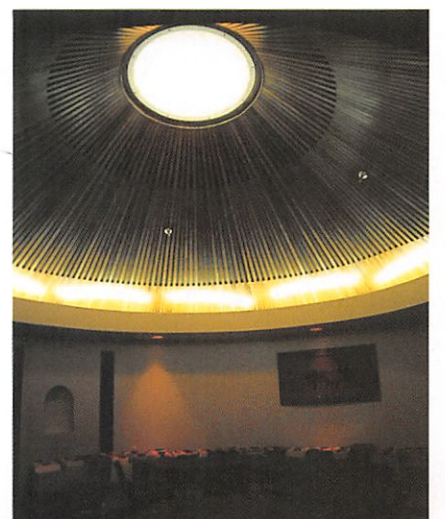
ACL病院のメアリーさんも、インディ  
アンの生活環境変化と食餌の変化が今日の彼  
らの健康を蝕むことになっている、と指摘する。

「以前は肉も脂肪気の少ないものだったし、  
野菜、果物、お茶に至るまで、みな自分達で  
栽培していましたが……」。

私は、西部劇に悪漢役で良く登場してくる  
「マジナイ師」こと「メディシン・マン(医療  
の人)」のことが気にかかっていた。近代医療  
サービスが無料で提供されるようになって、  
「メディシン・マン」の立場も微妙に変わら  
ざるを得ない、と考えるのが理性だが、私の  
中にこの理性を拒むものがあつた。加えて中  
年以上の人間、それもインディアンが、この  
種の何か宗教的臭いさえする伝統をそう簡単  
に放棄するとはとても考えられなかった。

インディアン・メディカル・センターのF  
医は、「入院患者が、親しいメディシン・マン  
の訪問を希望すれば、病院に来て貰います」  
と私の質問に返事した。居住地には、数百人  
のメディシン・マンがいると聞いて、この伝  
統が顕在であるのを知り、また、彼らが村の  
長老のような、日本でいえばお坊さんのよう  
な存在の印象を持った。

ACL病院でも、私は同じ質問を繰り返し



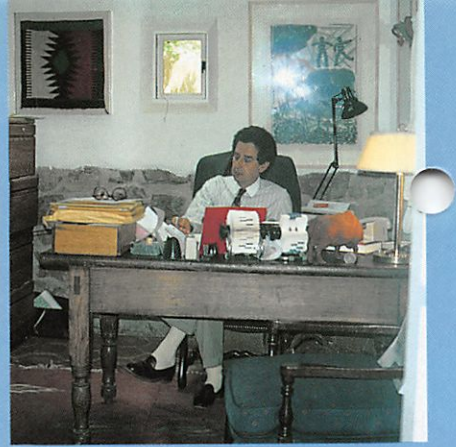




3代目 John Kennedy 夫妻



2代目 John Kennedy 夫妻



David Silver

た。嬉しいことにメアリーさんは、「メディシン・マンの祈禱室があるからお見せしましょう」と案内してくれた。

祈禱室(Ritual Room)は、メディシン・マンが患者から病の気を追い出す為、まず「キバ」と呼ばれる地下の穴に何日も籠って祈り、自身の雑念を払い精神統一をする、その「キバ」を再生したものだ。但し、モダン建築の中、地上のルームに作られているので、天井はドーム、そのドームの真中に丸窓式に電灯が嵌め込まれ、窓ひとつない暗い部屋に入った途端、地下から穴(丸窓の明かり)を通して地上の空を見上げた気分を作り出している。

自身の精神統一が出来たところで、病の気に患われている人が連れてこられ、祈禱師に依ってその悪い気を追い出して貰うこととなる。「キバ」の地上の穴の真下に砂場があり、祈禱師はそこに悪霊を払う為に人やシンボルの絵を描く。祈りが終わるとこの絵は掻き消され、あとに残されない。これが名高い「砂絵」である。

日本では、ハリウッド映画の影響が、この神主的役割も強いメディシン・マンのことを「マジナイ師」と訳しているが、私は「祈禱師」が最も適訳と思う。

今回の取材では、実に色々な人に会い、また多くの人の協力にあずかった。アメリカはまことに広い。人類のルツボとしてあらゆる文化が共存している。平行して、この国の各地域に、地域固有の文化発生となっている。

南西部の文化は、西部のパイオニア的「自由奔放さ」と南部の「歓待(ホスピタリティ)」の混合文化だ。パイオニア時代の人なつっこさで、人々は開放的にこの遠来の客(私)を受け入れ、温かく迎えてくれた。

特にジョンD・ケネディ氏の厚遇には感謝の言葉がない。80年前に創業したインディア

ン伝統工芸専門ビジネスのジョンD・ケネディ社の3代目社長だが、1週間近く付き合ってくれ、自家用機のセスナを自ら操縦し、ニュー・メキシコ、アリゾナ、コロラド、ユタの各州のインディアン居住地、トレーディング・ポスト(取引地点)、主だった観光場所等を案内してくれた。

観光地の中には勿論日本人が群をなしてつめかけるグランド・キャニオンも入っていたが、あまりの規模の大きさに同行したアルバート・ロウ弁護士が、「これ絵ハガキ? それとも本物?」と、その光景についてうがった冗談をとぼし、大笑いとなった。6分位で私達はその「絵ハガキの風景」に飽きてしまい、多分ギネスブック記録に載せる資格がある「最短時間(6分)のグランド・キャニオン見物」を切り上げた。

冗談はさておき、ビジネスに置き換えてみると、グランド・キャニオンは「国際ビジネス」の象徴といえよう。あまりに巨大で、あまりに複雑で、一体どこから手をつけたら良いか途方に暮れる、ということだ。焦点を決めて、そそり立つ崖を這い登るか転げ落ちて、襲いかかるかも知れない猛獣や横なぐりに降りつける風雨、砂嵐と対応しながら手探りでこの辺を撫ぜ回し、そこに住みつく秘訣を見出し把握することしかない。

「ねえ、日本はその努力をしたし、しているから(国際ビジネスで)ここ迄来たのですよ。あなた方もその努力をすれば成功しますよ、



と私はこの2人に言った次第。2人は、人の良いアメリカ人らしく、「うーん」として私の意見を聞いていた。

私はアメリカ人から時々「貴女はツー・クリア(明瞭過ぎる)」といわれるが、この国の人達はハッキリした意見を持ち、口を聞く人に対して好感を持つ傾向があるのも事実である。

ハッキリ口をきく珍しい日本人としてか、遠来の客としてかは定かではないが、ジョン3世のご両親、2代目社長夫妻に紹介された際、表敬の念を示してジョン2世はネクタイをしめて現れ、息子の3世から、「おや、これは珍しい」とからかわれた。南西部のスタイルはカジュアルで、ネクタイをしめることは稀だからだ。その代わり、インディアン・ジュエリーと紐の組み合わせのポーロー・タイがはやっている。

2世夫妻は、結婚50周年を記念してそれぞれ別個に「私達の息子と娘達、彼等の息子と娘達、更にその後続く子孫達の為に」と来し方の人生を書き綴っている。私にそれぞれサインして1冊づつ下さった。何だか私迄ケネディ家の1員となったような気分になったから不思議である。2世夫人の名はジョージアナといい、花のように爽やかな人だ。しかし会った瞬間、内に潜む強靱な芯が伝わってくる。ケネディ家の背骨的存在であることは間違いない。

南西部の家族関係は親密だ。毎日電話をかけあい、週に一度は一緒に食餌をしたりして顔合わせをするのが普通である。ケネディ家もその例に洩れない。先日何かの機会に、息子・娘夫婦とその子供達が集まって、2世夫妻の為にパーティをし、その席でジョン3世は云ったそうだ。「私達は、素晴らしい両親に恵まれ感謝しています。本当に有難うございました」と。

世の親にとって、これ程心に染みる言葉は無いのではあるまいか? 「墓に着物は着せら

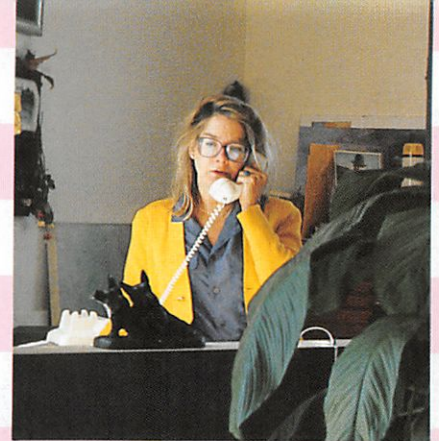




Bunny BobiasとCharles Greeley



CarolとPaul



Jane Shea

れず」という日本の格言が私の頭を彷彿する。近代日本は、アメリカ南西部の人達から多く学ぶことがあるのではあるまいか？」

5日にこの取材でサンタ・フェに飛んだ夜、銀行家で顔利きのD・シルバー氏が20人ほどのパーティを私の為にしてくれた。集まった人は殆どみなアーティスト。その他は伝統工芸専門家とか画廊経営者とかいう顔ぶれだった。前号で述べた如く、サンタ・フェ(NM州の首都)の人口の10%はアーティスト、市の印象は『画廊の街』であるから無理もない。シルバーさんの家も、まるで美術館さながらにカチナ人形、絵画、彫刻等ていっばい。暖炉の上部にひょいと飾ってある祈禱師用道具のコレクションを、その道に詳しいケネディさんが「あれだけで楽に20万ドル(300万円)」と私の耳に囁いた。

私が南西部の生活様式を見たいといったら、途端に招待が続々。先着順(?)に3件だけ訪問させて貰うこととし、後は「次の機会」となった。こうして訪ねることとなった次の人達は、既に相当名の知れた錚々たるアーティスト達である。

◎バニー・トビアスとチャールズ・グリーリーさん

2人は夫婦だが結婚前の姓を名乗っている。バニーさんはセラミストで、夢想的でユーモア味のある壺類の作家として知られる。チャールズさんは画家で、豊かなスタイルで知られる。

生活様式は、当然のことながら自由奔放で、240年前に建った家を買って、制作の合間に手入れをしたり建て増しをしたりして住んでいる。国立公園森林地帯と地続きで、庭でロッキー山脈の最端の山を眺めながらのコーヒー・ブレイク(仕事合間の一息)とは、全く地上楽園の感である。

庭の椅子やテーブルは全てチャールズさんの手作りで、此処に移ってきた時にその

辺に転がっていたという牛カッパファローの白骨化した頭蓋骨が壁にかけられている。NYから姪ごさんが遊びにきて泊まって、夜のあまりの静寂さに恐怖で眠れなかった、という笑話をしてくれた。

◎キャロルとポール・サキシアンさん

奥さんのキャロルさんは、ジュエリーやひとひねりした彫刻風置物(たとえばブーツ)で知られ、画家のポールさんは抽象的壁画サイズの絵画やコラージュで名がある。彼の絵は1点8万ドルほどする。

2人は今、彼らの40エーカー(48,000坪)の土地に新しく建築中のスタジオに熱中のさなかと見受けられた。近くにある住居兼スタジオが、制作物で溢れてきた為らしい。私が着いた時、インディアンと思われるペインターが数人、スタジオの外壁を塗っている最中であった。

しかし、である。キャロルさんは外壁の上から下迄アプロの土色がいい、と云い、ポールさんは、アクセントの為に上部だけ白か青がいい、とやりとり中。私も絵を描く人間なので、これは微妙な瞬間に立ち会うこととなった、と思っていた。案の定、「ランコはどう思う？」と調停役のハメになりかかった時、猫に追跡された愛犬が駆け込んできて思考の転換となり、私は無事スタジオ入りとなる。

100年以上も前、ナバホのチーフが使っていたというインディアン・ラグのコレク



ションを見せて貰ったりしている中に、「もうサンタ・フェには27年住んだのでしている中に、「もうサンタ・フェには27年住んだので飽きてきた。全部(土地と建物ふたつ)売り払ってパリに移りたい」という話となった。「500万ドルではどうでしょう？」この道に詳しい銀行家のシルバーさんは、「あの建築中のスタジオが100万ドル、そして…」と値踏みをとっさにやってくれた。

◎ジューン・シェアーさん

水彩でミニアチュア・サイズの絵、テーマは「ヴァニシング・アメリカ(消え去るアメリカ)」に凝っており、道端で古い教会やガタのいった車にぶつかると、まるで良友にめぐり逢ったように目を細める芸術家だ。日本の雑誌で紹介されたこともある手製の盆栽の根元は、故郷のアラバマから持ってきたという苔で覆われていた。

「私が古い物、特に古い車に心が引かれるのは、それらが一生走り回って働いた、その功績は忘れさらずに称えられるべきと思うからです」と彼女は云う。この言葉は、私を大変感動させた。私自身、これまで20数年になるが、その間書き綴ってきた多くの記事の根底にあるのは、私の両親の世代に関する想いである。何と表現すれば良いのか…多分、鎮魂の願い、とでも表現すべき想いが私を駆りたてて止まらない。

ミニアチュア画家らしく、ジューンさん自身のデザインに依る、ほぼ建築完了の彼女の家は、小柄で愛らしい。庭も小さく、愛らしくなる様子だ。

彼女の趣味は、古いステージ衣装の収集。押入れにぎっしり並んでいる。2人でそれらを身につけて、セルフ・タイマーで写真をとって子供のように時を忘れて遊び惚けた。

著者：岩本蘭子

ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒業  
ランコインターナショナル社長





# DENTAL SPACE

## 木村歯科医院

奈良市南紀寺町1-219

院長 木村清子

### ヨーロッパ調の 雰囲気を取り入れ、 ホッとする空間作りを、 と心掛けました。

710年に平城京が遷都されるまで70年余り都として栄えた奈良市は、今でも町全体が公園の様に広がり、ビルとビルの間にはさまって暮らす者には他にはないホッとする雰囲気を感じさせる街である。

ご紹介の木村歯科医院は市の南部、近鉄奈良駅から車でおよそ10分、郊外住・商地の広い道路に沿って建っている。3階建のビルは工務店を経営されるお父様の持ビル。その1階の一角を借りてのご開業。

玄関を入ると真正面に大理石の壁。下面も

大理石と豪華だ。

待合室は道路に面して床までの曲線ガラスブロック。床は淡いグレーの木目。オヤ！と思うのは他院には見られない中央の大テーブルとそれを囲んだヨーロッパ風の椅子。最初は戸惑うが、座ってみると対面の人とも全く気にならないのみか、つかず離れずの距離にあるからか親近感さえわいて来る。

白を基調に各部の窓を大きく取った作りは申し分のない明るさだ。

診療室も床、天井は待合室と同色同材。ユ

ニット前面部の飾り台は大理石。上部をゆるいアーチ型に隠し天井を作り、そこからダウンライトが。天井も高く、ユニットがなければ、そのまま南欧風のリビングルームとして通用しそうな雰囲気である。

院長は岐阜歯科大学(現朝日大学歯学部)の第9期生。卒業後大阪市内で勤務医を3年経験した後、郷里であるこの地に帰って開業。

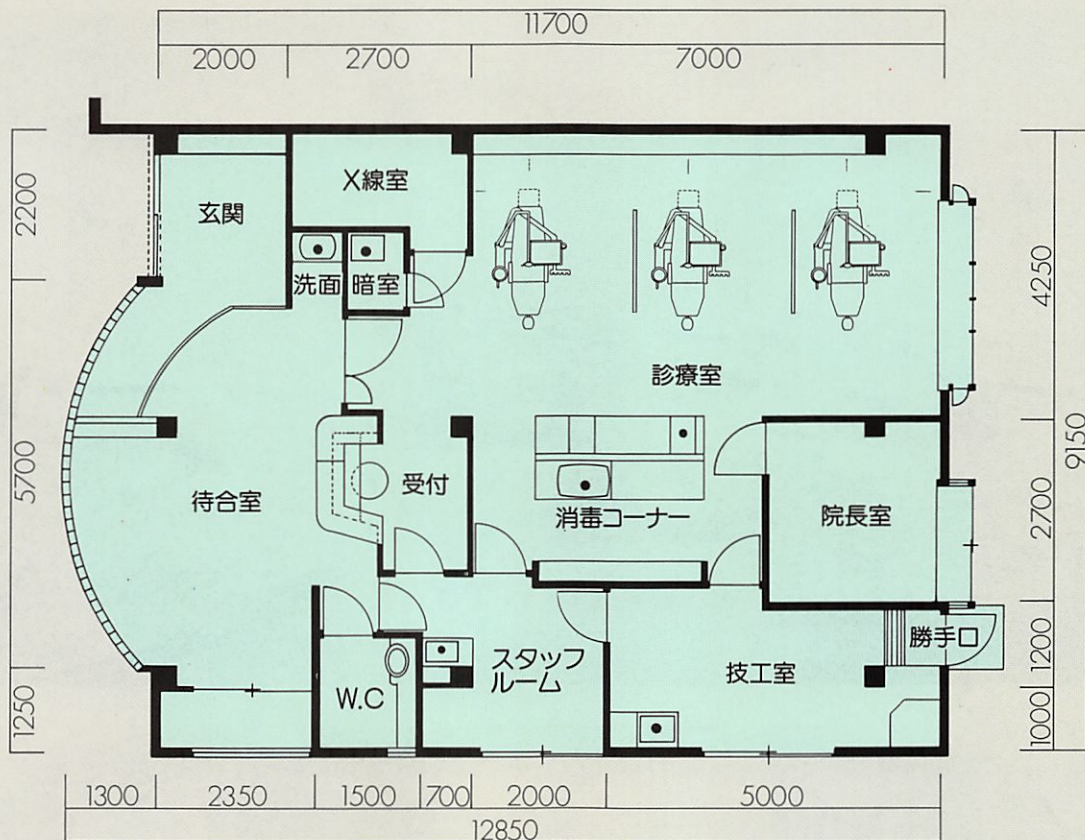
スタッフ共々明るく優しい印象が好評なのか、患者数も平均1日50名と多い。

尚、その中で黒一点、恵まれた男性は技工士をされているお兄様。先生にとっても頼もしい味方であろう。

Q：待合室のテーブル式はちょっとめずらしいですが、先生のお好みですか？

院長：父が工務店をやっておりますので、そ





- 設計・施工：株式会社木村組
- 開業：昭和63年12月
- スペース：115.5㎡(約35坪)
- ユニット：スマイリーN3台
- 診療時間：9:00～18:00、(休日)木曜・日曜・祝日
- スタッフ構成：歯科医師1名、衛生士1名、助手4名、受付2名、技工士1名
- 患者数：1日約50名



院長：木村清子先生

の方面に興味があり…。設計時点から、待合室のテーブルにはこだわりました。他にない感じで、ちょっと面白いかしら(笑)。全体のイメージはヨーロッパ調の落ち着いた雰囲気、ホッと空間作りを心掛けました。

Q：では大満足でしょう(笑)。開業後この点はもう少し、と思われるところはございませんか？

院長：全体としてはほぼイメージ通りに出来上がり満足しておりますが中で多少…。玄関の自動ドアが大きすぎますので、外部の風が直接入ります。風除室を設け、公衆電話を設置すれば良かったナ、と思っております。又、待合室のガラスブロックは明るく良いのですが、そちらが西になりますので、夕方は西日が入り過ぎちょっと暑

いですね。その他は使い易い診療室に仕上がったと思っています。

Q：お父様の持ビルとのこと。恵まれましたね。

院長：ええ、その点は恵まれました。でもテナントとして、ちゃんと家賃は払っております(笑)。

Q：患者数も多いですね。患者層は？

院長：ちょっと多いので大変ですが、皆さん協力してくれまして…。層は0才から80才迄、各年代共平均して来院していただいています。

Q：歯科医師を志された動機は？

院長：母が教師をしておりまして、小さな頃より「先生」に憧れてまして、この道に入りました。

Q：そうして今のご心境は？

院長：運営、技術その他毎日色々な悩みはありますが、それは他の職業の方達も同じことですから、それなりに充実した日々を送っております(笑)。

Q：スタッフの方も多そうですね。ご勉強は？

院長：皆さん前向きで共に努力してくれまして助かります。女性スタッフ全員ブラッシ







ング指導もやりますし…。私自身は歯科医師会主催等の講習会、詩吟で一緒にの先生方。近くで開業の勉強熱心な同級生の先生方に色々教えて頂いております。

Q：女性として独立、開業まで大変だったことと思いますが…。ご結婚は？

院長：最初の頃はシンドかった(笑)。でも2年ほど経った頃から徐々に慣れて来まして、今は“この診療室には私しかいない”と自覚するようになると同時に落ち着けるようになりました。結婚は今秋の予定です。

Q：女性ですと当然お子様も…。その時は？

院長：やはりそれは女医にとって大きな課題ですが、皆さん立派にやられておりますし…。その時その時で精一杯やって行こうと…。でも私の性格からは、ひょっとすると家庭中心になってしまうのではないかと、正直

多少不安です(笑)。でも近くに実家もありますので…。期待しております(笑)。

Q：この職業観については？

院長：難しいですが女医らしさを患者さんに伝えることが出来れば、この職業は女性には合っていると思います。最初の一步を踏み出すまではちょっと大変ですが、それを

うまくクリア出来れば…。私の場合は患者さんとスタッフの方達に後から押されて(笑)。歯科医師になるには男の方がと、今後はわかりませんが、今まではあまり感じたことはありません。

Q：オサダのスマイリーN、ご使用感は？

院長：大学の先輩が使っておられまして、その先生のところでユニットに触れさせて頂くと同時に、デンタルショー等で色々調べ、使いやすそうでしたので購入しました。実際使ってみて良かったです。

Q：連日のご奮闘(笑)。ストレス解消法は？

院長：色々ありますが今は詩吟とピアノとテニスと茶道です。詩吟は歯科医師会の先生が師匠ですので、たのしんでいます。大きい声を出して、ストレス解消法にはいいですよ(笑)。





Q：最後に友人、知人にメッセージを。

院長：同級生160人の内、女性は20人ちょっと…。女性の友達とは時々会いますが、男性の方の大部分は開業され忙しいようですし、遠方の方も多勢おられますから集まることは少ないですね。でも時には学生時代にもどって、皆さんとお会いしたいですね。お身体に気を付けて頑張ってください。

〈設計・施工をするにあたって〉

女性歯科医師ですので、診療所全体のイメージは曲線を多く取り入れ、柔らかな印象を心掛けました。受付のカウンター、待合テーブル、ガラスブロック、玄関上がり口、洗面所、出窓などです。特に待合室のテーブルは、優しく暖かいキッチンのイメージが欲しいとの要望で、最初は戸惑いましたが、出

来上がってみると澄ました印象がなく、患者さんにも好評のようで、ホッとすると同時に、やはり女性ならではの発想と感心しています。色彩はホワイト、オフホワイトで統一。その分季節の花々や飾り物、絵などでその時期に合わせ雰囲気を演出できるようにしました。また患者さんの視点が、外部から待合室、待合室から診療室へと、その様子が僅かに伺えることも患者さんにとっては必要なこと。

院長先生とは何回も、お互いの立場でお話し合いをしましたが、私自身にも良い勉強となったと同時に、こうした討論は完成後両者が満足いくためには必要な過程であったことを、出来上がった今、つくづく思っております。

株式会社 木村組

## 歯科医院の新築・改築・増築から、医院経営まで、すべてわかる。



歯科医院 定価10,300円 (本体10,000円)

### 開業ガイド

- 〈主な項目〉
- 歯科医院のセクション別実例
  - 歯科医院のレイアウトチェックリストと基本事項
  - 歯科医院のレイアウト実例
  - これから開業される先生方へ  
— オサダからのアドバイス他
- 〈別冊付録〉
- 設備機械、器具、材料リスト



歯科医院 定価6,180円 (本体6,000円)

### 経営マニュアル

- 〈主な項目〉
- 開業準備の留意点
  - 開業準備計画書/開業収支・資金計画書
  - 歯科医の節税戦略(青色申告)
  - 特別経費・専従者給与・みなし法人・損益通算・特別償却・MS法人・医療法人
  - 財テク・税テク 他

※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。  
長田電機工業(株)/顧客センター  
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5  
☎03(3492)7651代



道を語る

# 法歯は奉仕。 死者こそ我々の教師です。

東京歯科大学法歯学教室教授

## 鈴木和男



東京歯科大学の4階にある教授室。壁一面に各種の感謝状が掲げられている。ほとんどは難事件を解決した警察本部長からのものであるが、中に一つ母親の写真と並んで飾られてある金色に輝くプレート板が目止まる。法医学のノーベル賞と云われ、アジアではただ一人の受賞、ワード・スミス国際賞（国際法科学会）である。これは先生が初めて法歯学を確立したことに対して贈られた証である。机上には通常電話と並んで黒い電話が置かれている。お話によると、これは全国の警察と直通で、これ一本で全国にある警察署はもとより、駐在所まで連絡出来る特別電話であると云う。

日本ではもとより、世界的法歯学の第一人者、関わった事件・事故では、殺人、強盗、少女誘拐、死体遺棄などの犯罪や、日航機、フィリピン航空機、南アフリカ航空機、ビルマ航空機の墜落事故等、数えあげたらキリがないほど、その現場検証に立ち合い、国はもとよりその遺族の方々から感謝されている。「この仕事は誠意と愛情が最も大切。遺族の方々の心情と遺体の人権を大切にしなければいけない。おーい俺は××だよ、と叫んでいるかも知れない。この悲痛な声を聞き、遺族とひき合えず、その仲立ちをしてあげるのが私達の仕事です。日本で法歯学が特に注目され、社会に認められるようになったのは、

1985年に起きた日航機墜落事故です。一般医師にまじって、群馬県下の歯科医師全員がまったくのボランティアで活躍、歯型による身元確認は、完全遺体以外では5割近くに達しました。当教室からも全員が交通費までも自前で奉仕しました。中でいつまでも私の心に残るのは…。先生これを調べて下さい、と持って来たのはビニール袋に入った後頭部の皮膚の一片、それもドライアイスに入れての。管なのでコチコチに凍っている。私たちはそれを溶かし、薄く伸ばし、新聞紙で作った頭に被せ、わずかにある白髪混じりの毛をきれいに梳かし、周りを白い布で囲いました。そうして並べられた遺体を5～6体見ていくと、後ろの方で“あっ、お父さんだ”という声が聞こえたんです。たまたまその日その時刻に遺族の方が訪ねて来られたんです。“この姿は俯せになって昼寝をしている父の姿そのままです。もう諦めていたのですか”と。何かの縁でしょうか。この方は兵庫県の人でした。その後私のことが載った主婦の友社の本をご家族の方が読まれ、編集長宛にご夫人と長女の方から手紙が来て…。これがその2通の手紙です。きれいに書かれているでしょうと先生自ら読んで下さった。

「法歯学とは奉仕の学問であり、愛情と誠意がなければ出来ません。ですから私は家庭を乱す女性との関りのある人間、不浄の金を平気で手にするような人は全く信用しません。当教室でも時たま“ご両親は元気かい”と尋ねるんです。“ええ、まあまあ元気でやっておりますよ”と答えた教室員には“明日から来ないでよろしい”と云うんです。自身が最も大切であるはずの親のことさえわからない人間が他人に奉仕など出来ないからです」と現代っ子には厳しいお話。こうした人柄、教訓は母から教えられ、また私が今日あるのは母があったからこそなのです、とハッキリ云われる。



昭和2年に生まれ、生後20日で里子に出され、戦時には特攻隊に配属。昭和20年8月20日に敵艦に体当たりして死ぬことが決まっていたが、その5日前に終戦を迎え戦死をまぬがれた。「私の戦後は母さがしから始まりました。全国行脚の末、やっと見つけた母は歯科医、父は弁護士でした。その母から東歯大を勧められ入学。卒後は口腔外科教室に残り研究生活を。昭和28年、日本の法医学の権威者である東大医学部法医学教室の上野正吉教授から歯科の専門家を一人、助手として派遣してほしいとの要請があり、当時の奥村鶴吉学長が私を推薦してくれました。これが法医学（法歯学）への第一歩となったのです」。ちなみに、鈴木家は36代続く名家で、家系をたどると、勝海舟、富岡鉄斎、佐久間象山、小泉信三、田中耕太郎、飯沢匡という現代の日本に強いインパクトを与えた人々がキラ星の如く並んでいる。その36代目ご紹介の鈴木和男教授である。又、法歯学教室創設25周年を祝ったパーティでは、三笠宮崇仁親王同妃兩殿下を初めとして、全国から各界の名士800人以上、アルバムには海外の友人、マリリン・ローやロバート・ケネディの司法解剖で

有名なトーマス野口博士や国際法歯学会長のブラウン博士、さらにF.B.I.の要人の顔も見られる。

——東海、相模湾トラフに伴う大地震、また飛行機、船舶等、今後も大災害が起こる確立は多いのですが、その時の一般臨床医の心構えは？の質問に「日航機事故を機に私と警察庁長官、次長と3人で話し合い、日本歯科医師会の御協力を得て警察歯科医会を発足させました。現在40県が入会し、いざという時の活動組織を作り上げています。法歯学は特別な教育は必要ありません。学校で習ったことをキチッと覚え一般歯科を通じて色々な目を養い、加えて重要なことは社会正義を持っているということです。従って人の話をよく聞き、人間の生活をしっかり見つめることですね。開業医でも大切ですが、社会心理学とも呼べる分野。こうした方面の勉強を日々習得していくことが必要だと思います。そして先にも云いましたように、まず第一は誠意と愛情。人でも動物でも上から相手を見たらダメです。相手が座っていたら自分も座り、目線と同じにして話す姿勢、これが大切です。私も法歯学を27年やり、多くの現場に立ち合



いましたが、まだまだわからないことが沢山あります。死者を通して生きている人間の背景、心情を考える。日航機事故で4ヵ月間をついやしましたが、遺体が私に多くの事を教えてくれました。科学の目も大切ですが、それ以前に人間としての愛情、温かい心が大切です。これも全て母が教えてくれました。私は母を最も尊敬しています。通常ならちよつとテレで云えない言葉だが、鈴木先生が云うと、全くキザには聞こえない。胸には警視庁捜査一課のバッジ。事件の裏側、被害者の心、鑑識の方法、興味あるお話に思わず引き込まれ、いつの間にか辺りは真っ暗になっていた。







## 谷歯科医院

堺市奥本町1-15  
院長 谷 佳憲

永野 光江さん  
藤岡 純子さん  
森川美奈子さん  
久野 朋子さん

大阪より地下鉄御堂筋線でおおよそ25分。北花田駅は堺市や大阪市に通う通勤客の主要駅の一つ。

ご紹介の谷歯科医院はその駅から徒歩で4～5分、広々とした道路筋に建っている。

1階は近くで開業されている内科医であられるお父様の検査室。2階を歯科診療所に、3階を研修室にあてられている。3階建のビルは、土地はお父様が以前より所有されていたものを借入し、院長が建てられたとのこと。恵まれたスタートである。

今年29才、真っ黒に日焼けしたスポーツマンタイプの歯科医らしくない(?)、爽やかな院長。特に鉄人レースと云われるトライアスロンでは毎回全出場中上位1割には入られるようで、夜診療後にはマラソン、水泳等のトレーニングを欠かしたことがないと云われる。

そうした明るいご性格の院長の影響からか、ご登場のスタッフの皆さんもいたって朗らか、感じがいい。

最初にご紹介の永野さん。高校を卒業されるとすぐこの道へ。当院では開業以来、2年余り勤務されている。この道に入られた動機は「高卒時友人からこんな仕事があるわよ、と云われ、きれいそうだし、それならと思って医療事務の講習を受けて入りました。でも現実にはあまりきれいな仕事ではなかったです」と正直に。普段気をつけていることは「相手が病む人だからなるべくと心掛けているんですが、気分がわるいとすぐ顔に出ちゃいますので…ハイ、気をつけます(笑)」。今秋結婚の予定とか。患者層の関係から、当院は早番夕方5時迄と遅番8時30分迄とに分かれている。結婚後も勤められますか? その場合遅番は無理でしょうね、の質問に「いいえ、先生もやさしいし、職場の雰囲気もいいですから、出来るだけここで続けたいと思っています。彼も仕事で遅くなる時が多いから、大丈夫だって…。でも赤ちゃんは当然無理かしら(笑)」。泉北ニュータウンから50分ほどかけて通勤。長い通勤距離にもかかわらず、ここに勤めたいと云われるのはかなり魅力ある歯科医院であろう。当院の魅力は「やはり仕事がやりやすい、まかせて貰えること。それとアットホームと云うのかしら、全員の関係がすごくうまくいっているんです。やっぱり職場の環境が一番私達には大切なんです」と若い女性が長続きする秘訣を話してくれた。

次にご登場は今年4月、高校を卒業して入局したばかりの藤岡さん。“こんにちわ、初めまして”と明るい挨拶と共に入って来られた。まだ半年であるが、すっかり職場になじんでいる様子。おそらく患者さんにも評判が良いことであろう。「でも高校時代アルバイトをしていましたので、歯科医院についてはだいた

い知っていました。自分に向いている職業だなと感じていましたので、卒業後は迷わずこの道へ入りました。ええ、面白いですよ。面白いという表現が現代っ子らしい。いや、患者さんはどんな層、人、といじわるな質問に…。うーんと云ったきりなかなか言葉が出て来ない。やっと「中年の女性に多いかしら。予約の時間に平気で遅れるし、言葉使いが、何かこう…チョットね(笑)」。じゃあ良い患者さんは「やっぱり挨拶ですね。こちらが声をかけると笑って返してくれる人。私も気持ち良くなるんです」。当院の魅力は? 「自分のペースで仕事出来ることです。内容も色々やらせてもらえますし、先輩も親切だし、自分の知らないことを毎日覚えられることはたのしいですね」となかなか意欲的なご返事である。——でもやっぱりやめなくなった時もあるでしょ。どんな場合? 「ええ、何回か。私って意外に落ち込むタイプなの。自分がえられなかったり、ちょっと注意されたりすると…。先生や先輩が励ましてくれて…。今は出来るだけ長く続けたいと思っています。知らないことへの指導、指導から注意へと…。複雑な女性(?)心理、この辺の兼ね合いが難しいところか。

次にご紹介するのは高卒後動物専門学校に入られ、卒後は動物病院で2年余り。動物から人間へと昇格(?)された、ちょっと変わった経歴の持ち主の森川さん。動物と人間、どっちが難しい? 「人間ですね。だって人間は話が必要ですから(笑)。これが難しいですね。反面動物は人と違った難しさもあるんですが、歯の治療などは複雑な処置、例えば抜歯などはないし、抜くだけですからわりと簡単ですね」と素直なご返事。「当院に来た時は人

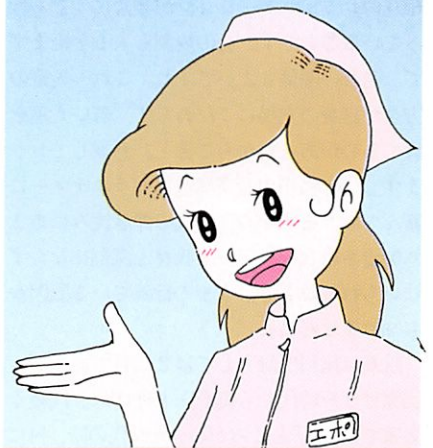


# アシスタント のための 診療室の手引き



定価6,180円  
(本体6,000円)

アシスタントとしての心構えから話し方、患者さんへの対応の仕方、会計、消毒、手渡し技術等をわかりやすく解説。また、簡単な機械のメンテナンスも図付で説明。アシスタントのノウハウを詰め込んだ一冊です。



※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。

長田電機工業株/顧客センター  
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5

☎03(3492)7651代



問のことは何も知らなかったので、「人の歯は何本」から勉強し始めました(笑)。開業時に当院に入って1年半、やっと少しずつ歯科医の内容がわかりかけて来ました。当院の魅力は？「前にも云いましたように、人と話すことによって相手の生活背景や性格もわかり、お互いに仲良くなりますと、人間っていいなあーって感ずるんです。他院は全く知らないのですが、毎日がたのしい。これが魅力ですね」と。この方も泉北から1時間近くかけて通勤されているようだ。

当院ではなくて、一般に女性が医院をやめたいな、と思う動機は？「院長が細かいことに口うるさいと嫌になりますね。掃除一つにしても、私達も汚れた職場、特に医院ではダメですが…。その点この院長は自分も私達といっしょになってやってくれます。初めは驚きましたが、やっぱりそうした姿勢、口だけではなく自ら気を使うと私達もやる気が全然違って来ますね。乙女心はやはり複雑で難しい。

久野さんは大阪府歯科医師会附属歯科専門学校卒の衛生士さん。既にこの道6年のベテランである。——この職業の役目は？「院内にあって、助手の方と先生を結ぶ役目。患者さんとは、専門的な立場から自身の口腔内を知ってもらい、スケーリングやブラッシング指導を的確にやることではないでしょうか」と、やはりベテランらしい答えが返って来た。「前の医院は家の事情でやめました、ここも前院も良い医院でした。それが本音かどうか分かりませんが、いつも「私1人では絶対診療は出来ません。皆さんがいるからこそ」常々云ってくれました。そうした言葉がスタッフには大きな励みとなりますし、そうし

た態度は患者さんにも伝わるのではないでしょうか。患者さんは多いです。長所と短所は「マイペースでちょっとのんびりし過ぎていることかしら。応用もきかないし…長所であり短所です(笑)」と。



## 院長 谷 佳 憲

### 〈院長から一言〉

院長が男の場合、患者さんを気楽にさせたり、またリラックスさせ安心させることは難しいですが、女性はその点上手ですね。これからの医院には技術はむろんですがそれかなりのウエイトをしめるのではないのでしょうか。当院は私と年令もほとんど開いておりませんので、友達感覚でたのしい職場に、を心掛けています。患者数も1日、アルバイトの先生に手伝ってもらって、60人程になりますが、皆さん本当に良く頑張ってくれて…。90点以上はつけられます。運営については、保険が99%ですので、技工点数から云うと、良いものを入れようと思えば思うほど赤字で矛盾を感じますが、今はそれも我慢して、患者さん本意でやっております。それを除くと(笑)…スタッフも良くやってくれますし、自身の体力も充分。悩みは全くありませんね(笑)。



オサダの商品  
〈お元気ですか〉

# 杉山歯科

岡崎市康生通西3-15-4  
ショッピングセンター レオ7階

院長 杉山 光



家康生誕の地として知られる岡崎市は、矢作(やはぎ)川に沿う岡崎平野の中心都市である。市西部の高台にある城跡から町は東に向かって発展。近代的なビルが建ち並んでいるものの、町全体は城下町らしく、しっとりとした落ち着きをみせている。

杉山歯科はその中心街、銀行、デパートなどが軒を並べるショッピングセンターレオ7階医療センター内にある。

待合室に入ると正面中心に庭石と燈籠を配した坪庭が、院内の雰囲気グッと和らいたものになっている。

お会いした院長、岡崎市の歯科医師会会長を務められているだけあって、一見ザックパランで豪快な印象を与えるが、お話しの内容は150名近い会員を率いる会長らしく理論的で、さすがはと感じさせる魅力を持つ方である。——人口31万余、人口対比ではほぼ丁度良い歯科医師数では? 「郡部の幸田町、額田町もいっしょになった数ですが、やはり当市も、町の中心に集まる傾向がありますから、街中心部は少しづつですが過密になって来ております。ただ助かるのは、当市は環境・風土からか、患者さんを含め、良く言えば大らか、悪く言えばのんびりし過ぎている為か、相互のコミュニケーションが非常にうまく行っていることです。会の規制も入るを拒まずで、老若の関係もよいですね。これも先輩の方々が自身の立場にこだわらず、若い人達を育てる心があったからこそと、感謝しております。」「又、当市の産業構造はバラエティーに富んでおりますから、時代の浮き沈みにあまり影響されない。従って我々も深刻にならずにいられることも、うまく行っている原因かも知れませんね。」

院長は歯科医師としては2代目であるが、実家は江戸時代から御殿医と呼ばれ9代続く名家である。「ところがね。先々代の時、村に伝染病が発生したんです。当時は広がりをおそれるため、村は外部との交渉を断つこと、これが決定だったんです。ですから村民は極秘

に片づけようとしていたのですが、頑固者の医者であった当家の主は隠すわけにはいかず報告。そのため村八分に合い、村を出てこの近くの矢作橋の近くで再開業しました。現在医者は本家が続けております。歯科医はお父様が初代。ちなみにお父様は日本歯科大学の第一回生。しかも首席で卒業されたため、証書も第一号。この証書は現在日歯新潟校の資料室に保存されているとのこと。「以来当家には歯科医師が多いですね(笑)。この愛知県だけでも親戚筋で50人以上いますし、在学中の歯科大生も10人以上はおりますよ。もともと愉快なことが好きな家系で、会えば話しても合いますから、すぐお祭りになってしまっね(笑)。従兄弟ぐらまでは、もう兄弟と同じ感覚ですよ(笑)」。こうした環境からか、なるべくしてなった感のする会長という役職。——歯科医師の現状と将来の展望は? 「もう

昔のように医師という立場にあぐらをかいている時代じゃありませんし、仲間意識だけでは世間で通用しませんよ。目を外部に向けて、自ら住民の中に入って交流を深めていく姿勢、これが大切ですね。寝たきり老人問題、緊急医療体制、学校保健や企業保健、各種の催事への参加等、住民へはむろんのこと行政にも積極的に働きかけ、双方の合意を得ていく努力が大切です。幸い当市では若い方々もよく協力していただけて、その点感謝しております。」

当院から巣立っていかれた先生方も既に10人以上。各地で活躍されておられるようだ。

「代診の人達も皆偉くなりましてねー。その点は自慢できますよ。やはり院長は若い人を育ててやろうという気持ちが大切ですね。これからは私達の歩んだ道より、さらに険しい道を歩まねばなりません私達もそうして来たのですから。」

オサダのスマイリーN2台に続いて15年以上前にご購入頂いた<ユニオート>が、「昔、兄貴と歯科をいっしょに診療していた頃は他社製品だったんですが、田舎でしたし、故障が多くメンテナンスには苦しんでいました。お店のすすめでオサダを買ったら、まるで違うんですよ。ここに移って20年。コンビに続いて、当時は外国製品が流行のようでしたが、私は国産で最も良いと云われた<ユニオート>を買いました。安定感もあり、噂どおり使いやすく、15年過ぎた今でも、全く支障はありません。良い機械ですね。」

## 外国製品全盛と云われた当時

国産で最も良いと云われたユニオートを購入。

噂どおり使いやすく、15年たった今も、

現役のバリバリです。





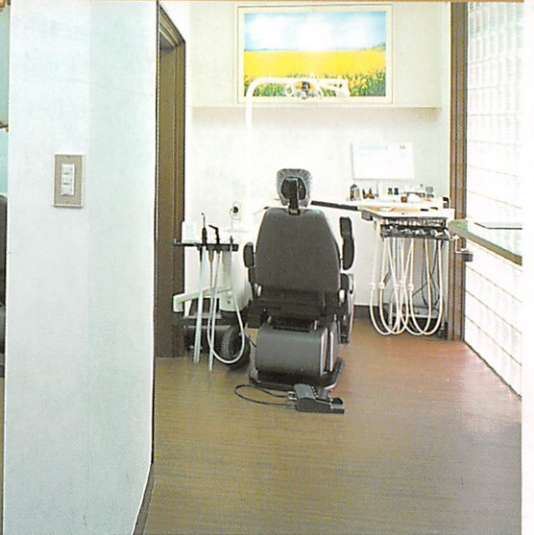
## 診療室訪問シリーズ

型



製造承認番号01日第0296号

SMILY Fine



### 関 歯科医院

福岡市南区老司2-11-4

院長 関 玲子

(九州歯科大学卒・55才)

関 克彦

(東京歯科大学卒・30才)

関 暁彦

(東京歯科大学卒・28才)



ユニットはやっぱりオサダが最も良いと...。  
スマイリー△ファインL型▽は、  
ほぼ完成に近い機械だと思えます。

博多駅から車で約30分。昭和40年開業と云われるだけあって、郊外住宅地に溶け込み、落ち着いた外観を見せている。

待合室から診療室まで木目を活かし、室内の色彩は茶と白で統一されている。

ドクターはお母様を中心にお二人の息子さんで、長い年月と丁寧な診療からか過密と云われる市内にあつて患者数は多い。「共に歩んだ主人(正彦氏)がこの2月突然亡くなり、卒後2人共佐賀医大の口腔外科教室で学んでいましたが急遽帰って来てもらいました。私自身、患者さんや周囲の方々から励まされやっとな立ち直ったばかりで...でも人間のやさしさ、繋がりがって本当に素晴らしいですね。悲しい思いをしましたがけれど、一方、人の温かさを沢山頂くことが出来ました」。克彦氏：「親から特別勧められたわけではないのですが、この道に入って良かったと思いますね。まだ開業医の経験は僅かですが、両親が築いた此処の評判を落とさないよう、ただ一生懸命やっけていきたい。今はそれだけです」。暁彦氏：「TMJの勉強の為に1年間留学する予定だったんですが、突然このようになりましたので...。臨床で戸惑うのは、何もかも保険給付範囲内で治療をやらなければなりませんので、制限が多すぎ目下最大の悩みです」。

◇ GM、N型に続いて、スマイリー△ファインL型▽が壁面に沿って5台並んでいる。ご兄弟共勉強・修業中各種のユニットを使われたが、こんなに良い機械はなかった、とうれしいお話。「開業時はオサダ、その後他社にしましたが、やっぱりオサダが最も良いと、すぐオサダに戻りました。開業医の意見が総て取り入れられ、ほぼ完成されたユニットだと思えますね。(院長)」。



※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社顧客センター宛にハガキでご請求下さい。